

(基本構想)

ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ

第2次佐川町地域福祉計画・第2次佐川町地域福祉活動計画



佐川町・佐川町社会福祉協議会

平成25年3月

目 次

第 1 章	計画の策定にあたって	
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置づけ・特色	3
3	計画期間	4
4	計画策定の体制	4
5	計画策定の経過	5
第 2 章	佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画（全体計画）	
1	基本構想	9
2	重点目標	9
3	計画体系図	10
4	重点目標・活動目標・実施目標・実施計画	
	生涯笑顔で暮らせるまち・みんなで支えるまち	11
	〃 ・めざせ健康長寿	13
	〃 ・めざせ心のバリアフリー	14
	〃 ・安心できる交通手段	15
	〃 ・子どもの元気がみんなの元気	16
	みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち・美しい自然いっぱいのまち	18
	〃 ・災害に強いまち	19
	〃 ・安心して暮らせるまち	21
	みんなが主役地域おこしで元気なまち・あなたが好きこのまちが好き	22
	〃 ・みんなで作ろう佐川ブランド	24
第 3 章	佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画（地区計画）	25
1	佐川地区計画	26
2	斗賀野地区計画	27
3	尾川地区計画	28
4	黒岩地区計画	29
5	加茂地区計画	30
第 4 章	計画推進体制	
1	推進体制について	31
2	みんなで福祉のまちづくり委員会	31
3	地区部会	31
4	専門部会	32
5	町民としての心得	32

第5章 資料編

1	地域の活動実践例	34
2	アンケート調査結果	46
3	行政統計データ（平成25年1月末現在の人口分布）	60
4	佐川町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	64
5	策定委員会・作業部会・アドバイザー・事務局名簿	65

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

佐川町長 榎並谷 哲夫

誰もが忘れることのできない東日本大震災から2年が経過し、私たちの日常生活の中では震災の記憶も過去の出来事として捉えられるようになっておりますが、現実には、いまなお30万人を超える被災者の方々が避難生活を続けており、癒えない傷を抱えながら心身ともに長期に渡って大変なご苦労をされていることを忘れてはなりません。

いま、日本は世界中に経験のない少子高齢社会を迎えつつあり、生活スタイルの多様化も相まって、地域住民の支えあいの力が弱まっているとの指摘があります。そのなかで佐川町は人口減少や地場産業の衰退等、地方特有の諸問題も抱え、地域の自治について複合的な課題を背負っています。

次の南海地震への備えとして、地域の支え合いの取組の一つに自主防災組織の設立、強化が叫ばれています。佐川町においても平成24年度末時点で組織率が80%近くにのぼり、震災をきっかけに徐々に住民どうしの支え合いの機運も高まっています。防災について、広く「自助」「共助」「公助」という言葉が使われますが、なかでも「共助」の重要性がという言葉が一般に広く使われるようになっていますが、

次の南海地震への備えの一つとして、障がいのある方や高齢者など、災害時に自力で避難できない「要援護者」への支援の強化が叫ばれています。なかでも「要援護者」を受け入れる福祉避難所の整備は喫緊の課題であり、町内で唯一、福祉避難所として指定している「佐川町健康福祉センターかわせみ」の備品等の整備に加えて、他の施設の指定・協定も検討していかなければなりません。

社会福祉法人 佐川町社会福祉協議会
会 長 明神 一榮

今日の日本は、グローバル化に伴い人口や経済が都市に集中し、高知県や佐川町のような地方は人口減少、少子高齢化、急速な経済縮小にみまわれ、生活関連の社会資源も山間部から確実に減少することなどから、近い将来、地域社会の存立すら危ぶまれる地域も出てきております。

また国家として社会保障費増大を抑制する方向性を背景に、自助共助公助の役割分担についても、自助・共助に重心が移されつつありますが、頼みの綱の共助にしても、家族関係の希薄化、個人情報保護法やプライバシーを重視する「個」を中心にした社会に変遷しつつあり、人と人のつながりによる温かく手を取り合える社会が過去の遺産になる懸念もされております。

そのような中、個人や地域の課題や困りごとの解決を、「公」である行政に求めていく傾向が強くなりつつありますが、ますます増える生活ニーズや地域課題への対応をするためには、住民が主体となり行政や関係機関と協働するという新たな仕組みづくりが早急に求められています。

佐川町では、そのような背景に基づき平成 20 年に第 1 次佐川町地域福祉計画・第 1 次佐川町地域福祉活動計画を策定し、住民主体の組織である「みんなで福祉のまちづくり委員会」とその地区組織を立ち上げて、地域のニーズに合わせた活動を行ってきました。

まだまだ誕生したばかりの小さな一歩ではありますが、高知県下でも注目を浴びる活動もあり、まるで子どもの未来に抱く大きな希望のような、大きな一歩でもあるように感じます。

佐川町社会福祉協議会としても、この歩みを止めることなく、また本当の意味で地域全体が同じ課題や気持ちを共有し、それぞれの立場で連携しながら目指すべき方向へ向っていけるよう、行政はじめ関係機関と協働し、安心できる居場所や活躍できる出番がたくさん生まれるような、“誰もが安心して暮らせるまちづくり”に邁進してまいりたいと存じます。

この計画策定が、策定に関わった多くの人たちの願いが、ひとつでも多く実現できる契機になりますよう祈念いたしまして、巻頭にあたってのごあいさつを申しあげるとともに、計画策定の趣旨のご説明とさせていただきます。

2 計画の位置づけ・特色

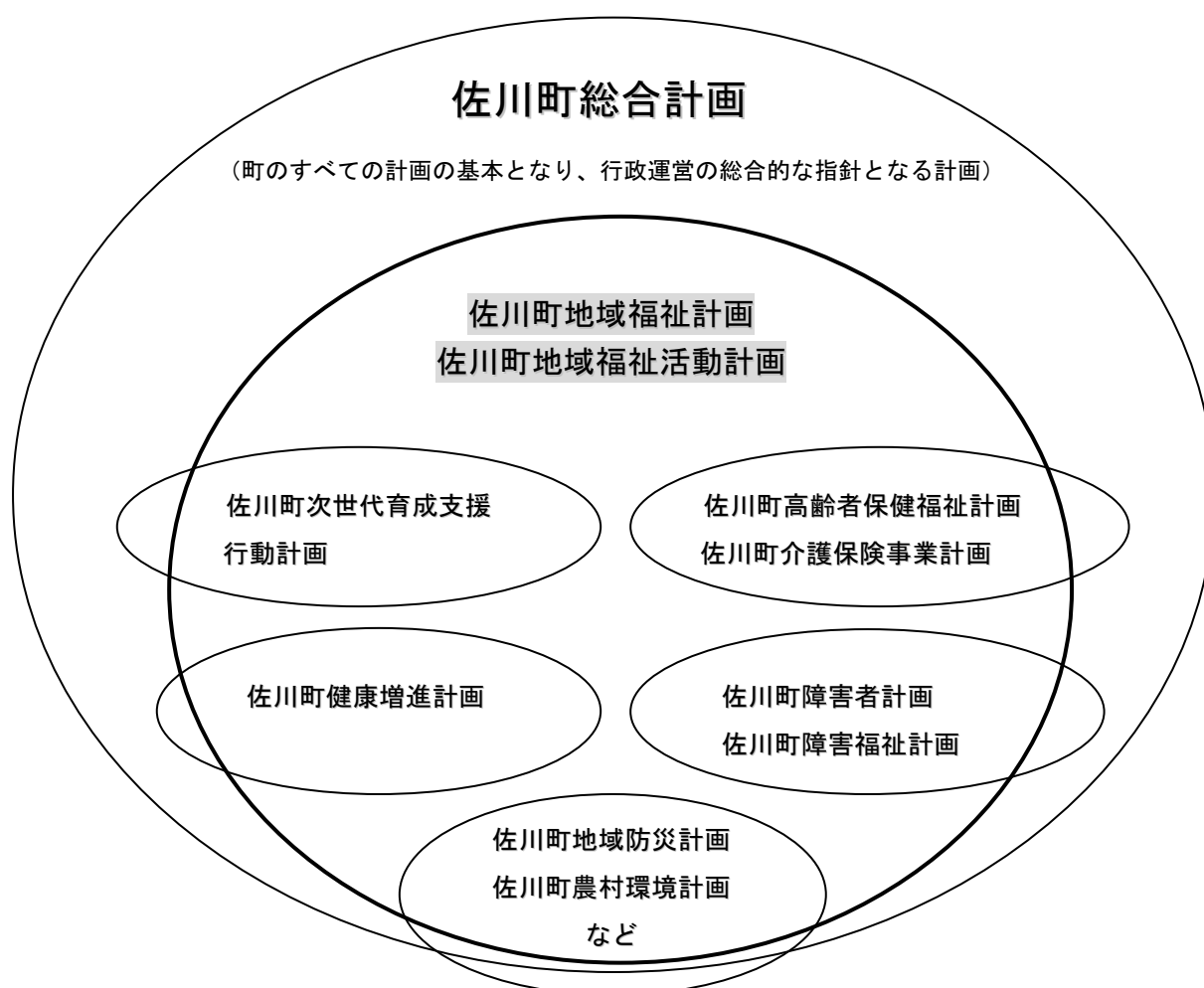
この計画は、行政計画である地域福祉計画と社会福祉協議会が住民とつくる地域福祉活動計画を一体的に策定しています。

この計画の内容は、主として「住民主体の活動」に焦点をあて、行政等の関係機関とのパートナーシップのもとに住民が地域で行う取り組みの方向性や基本的な考え方を示し、今後の地域福祉を推進するための基本的な役割を担うものとして策定しています。

今回策定した第2次計画の特色として、より住民と行政・社会福祉協議会が一体となってこの計画を推進していくために、第1次計画にはなかった地区単位（佐川、斗賀野、尾川、黒岩、加茂）での計画を盛り込んでいることや、全体計画においては「住民主体の活動」に対する行政や社会福祉協議会の支援や関わりについて各項目に明記しています。

この計画に関係する具体的な行政施策・事業については、次世代育成支援行動計画・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・障害者計画・障害福祉計画・地域防災計画・農村環境計画などの各分野における個別の行政計画や各年度の予算編成方針等との整合を図りつつ、積極的に推進することとしています。

【地域福祉計画・地域福祉活動計画と他の行政計画との関連図】



(市町村地域福祉計画)

第 107 条 市町村は、地方自治法第 2 条第 4 項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営業者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

1. 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
2. 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
3. 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

(市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会)

第 109 条 市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の 2 以上の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉を目的とする事業を営業者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、(中略) 市及び町村にあってはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を営業者の過半数が参加するものとする。

1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
2. 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
3. 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
4. 前 3 号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

3 計画期間

第 1 次計画は、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 力年の計画期間として策定しました。

この第 2 次計画は、第 1 次計画と同様に計画期間を 5 力年とし、平成 25 年度から平成 29 年度までとします。地域のニーズや社会情勢の変化に対応するため、毎年度ごとに計画の進捗状況の確認を行い、必要に応じて計画の見直しを図ります。

4 計画策定の体制

第 2 次計画策定にあたっては、第 1 次計画の推進体制の核となっている「みんなで福祉のまちづくり委員会」のメンバーを中心として、第 1 次計画策定時と同様に、策定委員会、作業部会を設置し、アドバイザーを迎え、町健康福祉課と町社会福祉協議会とで事務局体制を組みました。(各名簿は第 5 章資料編に添付してあります。)

策定委員会・各地区の部落長会の会長や、地域活動を行う団体の代表者、ボランティア団体代表者など、計画策定にあたっての軌道修正や、承認を行います。また策定後の計画推進のために重要なメンバーとして構成しています。

作業部会・地域での福祉活動に従事している方、地域の行事やイベントに深いかわりのある方、町職員など、実際に地域の中で活動し、現実的な部分でのアイデアや意見を計画策定に発揮していただける方で構成しています。

アドバイザー・高知県立大学社会福祉学部の田中教授をはじめ、中央西福祉保健所地域支援室、高知県社会福祉協議会地域福祉課などにアドバイザーとしてお越しいただきました。

事務局体制・地域福祉計画及び地域福祉活動計画の同時策定のため、佐川町健康福祉課及び佐川町社会福祉協議会において合同事務局を設置しました。

5 計画策定の経過

合同会 6月1日（金）策定委員会18名、作業部会23名出席

・講演「地域福祉計画・地域福祉活動計画について」

講師 高知県立大学社会福祉学部教授 田中きよむ氏

・地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会設置要綱説明 事務局

・委員長、部会長選任

・計画策定内容及びスケジュールの確認 事務局



合同会の様子



田中きよむ先生の講演

振り返り会 第1回座談会

地区の中心メンバーに集まっていただき、過去4年間の活動について、できた・できなかったの視点からワークショップ形式にて振り返りを実施。

6月25日 斗賀野地区 13名

6月28日 佐川地区 13名

7月 5日 黒岩地区 25名

7月11日 尾川地区 24名

7月21日 加茂地区 19名



尾川地区



加茂地区



黒岩地区

お世話役さんアンケート

“地区のお世話役さん”の位置づけにある方に地区状況や地区の捉えかたについて伺うアンケートを実施。

※8月実施（364名対象、272名回収、回収率74.7%）

※部落長、自主防会長、民生委員、福祉委員、サロン・百歳体操代表者、みんなで福祉のまちづくり委員会、社協役員対象



未来をかたる座談会 第2回座談会

振り返り会の意見とお世話役さんのアンケートの結果を踏まえて、参加者のみなで、「これをすれば地域が変わる（案）」をワークショップ形式で実施。

目標・何をする・誰が・どこで・対象・いつからを細かく提案しました。

9月18日	斗賀野地区	35名
9月24日	尾川地区	36名
9月26日	黒岩地区	30名
10月 5日	佐川地区	30名
10月13日	加茂地区	15名



加茂地区

斗賀野地区

黒岩地区

未来をつくる座談会 第3回座談会

第1回、第2回座談会及びアンケートに基づき参加者の夢や希望をのせて、今後5年間で地区がめざしていくビジョンや活動についてまとめた地区計画をそれぞれ作成しました。

11月15日	尾川地区	27名
11月21日	斗賀野地区	22名
11月22日	加茂地区	14名
11月24日	黒岩地区	26名

11月26日 佐川地区 27名



佐川地区



尾川地区



斗賀野地区

作業部会

○12月10日 第1回作業部会

地区計画をもとに、第1次計画体系図に修正作業及び地区計画の分類をしました。

28名出席

○12月21日 第2回作業部会

活動目標ごとの“実施計画”や“続けよう高めよう”を活動状況など勘案し加筆修正作業を実施しました。24名出席

○12月下旬～1月中旬

事務局(行政社協など)で作業部会案に加筆修正しました。

○1月28日 第3回作業部会

事務局修正部分などを確認し、活動目標・重点目標の検討を実施しました。16名出席

○2月27日 第4回作業部会

策定委員会での意見を検討し、計画案を修正しました。17名出席



作業部会の様子

策定委員会

作業部会で立案された計画内容について、様々な策定委員の立場から意見提議を行い、作業部会での再度の審議と第2回では計画の決定を行いました。

2月15日 第1回策定委員会 策定委員16名出席

3月22日 第2回策定委員会 策定委員11名出席



策定委員会の様子

事務局会

地区座談会、策定委員会、作業部会、アンケート等を実施するにあたり円滑に運営できるよう事務局で綿密な打ち合わせを実施してきました。

5月14日	第 1回	事務局会
6月19日	第 2回	事務局会
8月 2日	第 3回	事務局会
9月14日	第 4回	事務局会
11月 1日	第 5回	事務局会
12月 5日	第 6回	事務局会
12月28日	第 7回	事務局会
1月23日	第 8回	事務局会
2月14日	第 9回	事務局会
2月27日	第10回	事務局会
3月21日	第11回	事務局会

第2章 佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画 (全体計画)

1 基本構想（未検討）

ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ

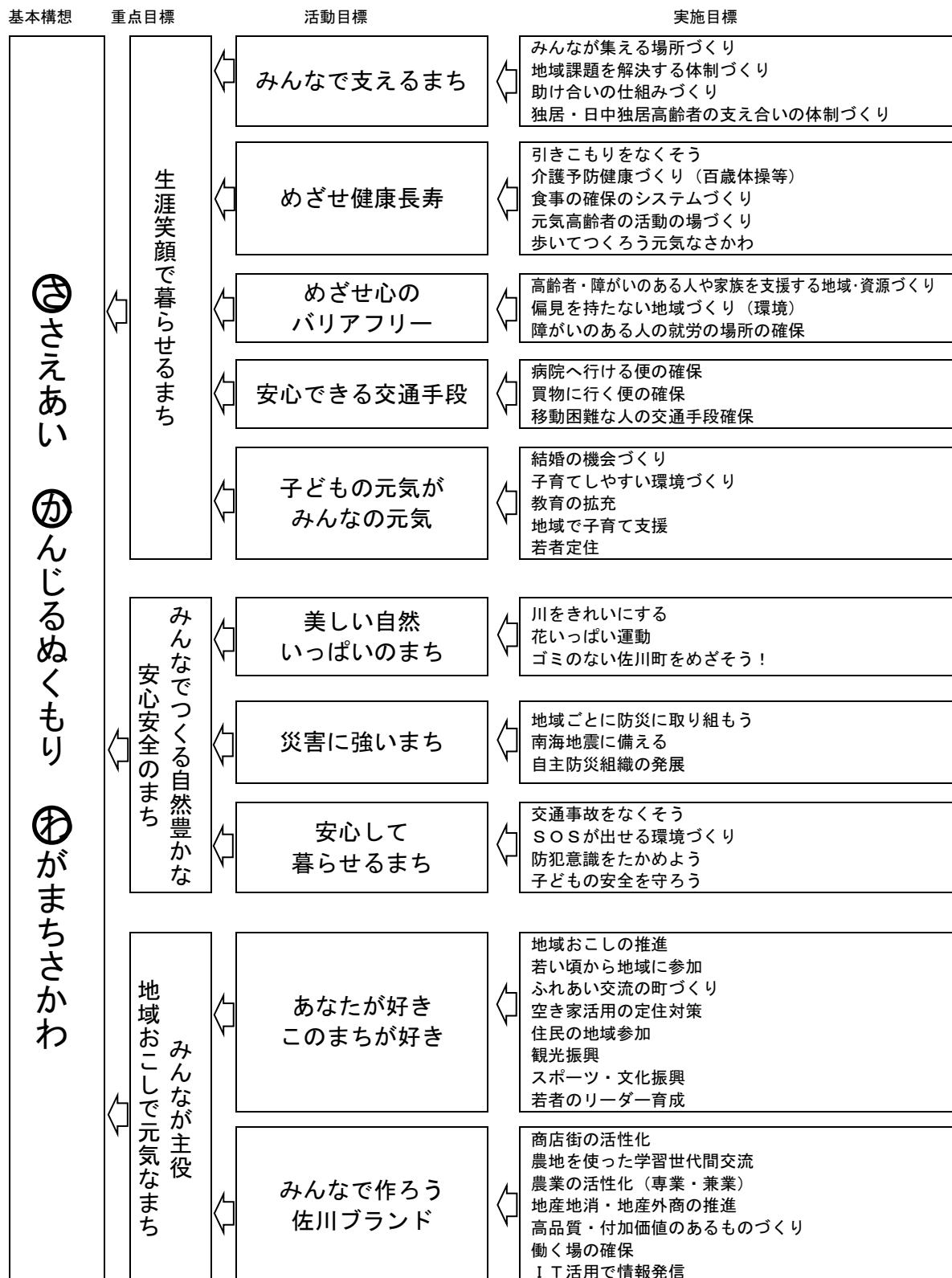
2 重点目標

○生涯笑顔で暮らせるまち

○みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち

○みんなが主役 地域おこしで元気なまち

3 計画体系図



4 活動目標・実施目標・具体的実施計画

重点目標 生涯笑顔で暮らせるまち

活動目標 みんなで支えるまち

実施目標 みんなが集える場所づくり

地域課題を解決する体制づくり

助け合いの仕組みづくり

独居・日中独居高齢者の支え合いの体制づくり

実施計画

地域の拠点をつくろう

地域のイベントや祭りへ参加しよう

佐川・斗賀野・尾川・黒岩・加茂の各地区計画の推進に参加しよう

助け合い組織をつくろう（困りごと、生活支援など）

食事の出前販売や移動販売の依頼を検討しよう

NPOなどで福祉有償運送の運行を検討しよう

見守り上手、見守られ上手になろう

災害時要援護者台帳を活用し、自主防災組織と連携しよう

お互いに声をかけあおう

近所づきあいを増やそう

退職者に活躍してもらおう

続けよう・広げよう

あったかふれあいセンターを利用しよう

地域や部落の活動へ参加しよう

自主防災活動へ参加し、情報を共有しよう

地域の課題をみんなで協力して解決していこう

行政の課題を共有し、行政に協力しよう

見守り協定を継続しよう

民生児童委員の訪問配食を続けよう

見守りを続けよう

町行政の支援体制

活動目標「みんなで支えるまち」を達成するための住民活動について、健康福祉課・産業建設課・教育委員会事務局が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、次世代育成支援行動計画（平成27年度～子ども・子育て支援事業計画）、高齢者福祉計画・介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

特に、高知県地域福祉支援計画で掲げている「高知型福祉」の実現を目指し、地域の課題を地域で解決できるように、次の3点について、社会福祉協議会とともに積極的に取り組みます。①誰もが利用できる「集う」機能を基本に、交流、一時預かり、送迎、泊り、訪問、相談、つなぎといった様々な機能を持たせた「あったかふれあいセンター」や、「集落活動センター」などの地域の拠点整備。②高齢者や障がい者などの生活を維持するための「新たな支え合い」の仕組みづくりの促進。③要援護者の早期発見、早期対応のための地域の見守り支援ネットワークの充実（「地域包括支援ネットワークシステム」の構築）。

町社会福祉協議会の支援体制

地域住民の生活課題を地域住民が気づき、自分たちで問題解決の手法を検討、実施できるようにするために、その仕組みやプロセスを「みんなで福祉のまちづくり委員会」及び「地区部会」の中で確立できるよう支援をしていきます。

また、お隣近所での信頼関係・協力関係が希薄にならないよう、部落組織や自主防災組織などに対して地域を網羅した組織のつながりづくりの提案をしていきます。

重点目標 生涯笑顔で暮らせるまち
活動目標 めざせ健康長寿
実施目標 引きこもりをなくそう
介護予防健康づくり（百歳体操等）
食事の確保のシステムづくり
元気高齢者の活動の場づくり
歩いてつくろう元気なさかわ

実施計画

子どもとふれあう機会を持つ
地域マップをつくろう
健康づくり教室へ参加しよう
認知症対策講座へ参加しよう
料理教室に参加しよう
男性も参加しやすい趣味のグループをつくろう
若いときから高齢まで出来る趣味を普及しよう（例：ゴルフ、カラオケ）
年に1回は健康診断を受けて健康状態をチェックしよう
ウォーキングイベントに参加しよう
出前講座を活用しよう

続けよう・広げよう

近所づきあいを増そう
声をかけ合って集まりに参加しよう（保育園行事など）
町内の散歩道を充実しよう
いきいき・かみかみ百歳体操を拡大しよう
ふれあいサロンに参加しよう
若い時からスポーツサークルを盛んにしよう
お弁当配達を広げよう
地域イベント（まつりなど）を続けよう
シルバー人材センターの活動を支援しよう

町行政の支援体制

活動目標「めざせ健康長寿」を達成するための住民活動について、健康福祉課が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、健康増進計画、高齢者福祉計画・介護保険事業計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

ふれあいサロンや百歳体操を中心に最寄の地域で介護予防が出来る取り組みを支援します。

また、仲間づくりや生きがいづくりの観点からも、自分にあった活動を選べるようボランティアセンターとして様々なボランティア活動や地域活動メニューの充実を図ります。

重点目標 生涯笑顔で暮らせるまち
活動目標 めざせ心のバリアフリー
実施目標 高齢者・障がいのある人や家族を支援する地域・資源づくり
偏見を持たない地域づくり（環境）
障がいのある人の就労の場所の確保

実施計画

声をかけて集まりへ参加しよう
障がいのある人や家族を支援しよう
ボランティア活動に積極的に参加しよう
何でも話しあえる地域にしよう
小さいときからふれあえる地域にしよう
地域で障がいについての正しい理解をすすめる偏見を持たない地域をつくろう（劇・疑似体験等）
地域で施設を応援しよう

続けよう・広げよう

地域による見守りを続けよう
声かけを多くしよう
高齢者や障がい者の活動を支援しよう
就労の場所を増やそう（作業所・民間企業等）

町行政の支援体制

活動目標「めざせ心のバリアフリー」を達成するための住民活動について、健康福祉課が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、障害者計画、障害福祉計画、高齢者福祉計画・介護保険事業計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

高齢者や障がい者の自立した生活を支援できるよう住民全体で理解を進め、お互い様の雰囲気での助け合いができる地域づくりや、小学校区単位などで生活支援組織・仕組みづくりを「みんなで福祉のまちづくり地区部会」と検討を進めていきます。

重点目標 生涯笑顔で暮らせるまち
活動目標 安心できる交通手段
実施目標 病院へ行ける便の確保
買物に行く便の確保
移動困難な人の交通手段確保

実施計画

バスの運営にスポンサーを募ろう
買い物客を迎えにいくバスを出してもらおう
ボランティアの介助も検討しよう
近くの店を使用しよう

続けよう・広げよう

声かけあって買物に行こう
介護タクシーの運行をタクシー会社に働きかけよう

町行政の支援体制

活動目標「安心できる交通手段」を達成するための住民活動について、健康福祉課・総務課が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、高齢者福祉計画・介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

車などの交通手段を持ち得ない方の生活基盤となる通院や買い物などの手段が確保されるように、公共交通や民間資源も含めて、協議ができるよう努めます。

重点目標 生涯笑顔で暮らせるまち
活動目標 子どもの元気がみんなの元気
実施目標 結婚の機会づくり
子育てしやすい環境づくり
教育の拡充
地域で子育て支援
若者定住

実施計画

独身者の出会いの場を増やそう
サークル活動で出会いの場をひろげよう
青年団活動を復活させよう
母親が安心して働ける場所を確保していこう
3世代家族のよさを見直そう
男性の子育てをみんなでひろめよう
次世代を育成して元気な町にしよう
地域の人々でこどもの生きる力を育てよう
総合学習¹授業を活用しよう
あいさつ運動推進に取り組もう
家族のきずなを大切にしよう
世話焼きおばさんに活躍してもらおう

続けよう・広げよう

あかるい元気まちづくり会²
佐川子育てサポートたんぽぽの会³
地域支援ネットワーク⁴
子育てサークル（自主活動）
助産所での相談
町の歴史や文化の伝承
食育への取り組み
声かけ運動（地域の見守り）
さかわ読みっ子応援団の出前事業
地域の活動を広報していこう

¹ 総合学習・・・学校教育におけるカリキュラムの一形態。教科の枠組みを超えて総合的に学習を進めること。

² あかるい元気まちづくり会・・・イベントや紹介などで独身の男女に出会いのきっかけを提供して、結婚の機会を作るためのボランティア団体。

³ 佐川子育てサポートたんぽぽの会・・・（巻末資料参照）

⁴ 地域支援ネットワーク・・・児童福祉法に基づき佐川町が設置する「要保護児童対策地域協議会」の佐川町の名称。（巻末資料参照）

町行政の支援体制

活動目標「子どもの元気がみんなの元気」を達成するための住民活動について、健康福祉課・教育委員会事務局が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、次世代育成支援行動計画（平成27年度～子ども・子育て支援事業計画）等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

「地域に若者が残って欲しい」という地域の願いが、地域の若者を支援する仕組みに繋がるように、「みんなで福祉のまちづくり地区部会」や様々な団体等と連携し、検討します。

重点目標 みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち
活動目標 美しい自然いっぱいのまち
実施目標 川をきれいにする
花いっぱい運動
ゴミのない佐川町をめざそう！

実施計画

清流づくりの学習会をしよう
いろんな川の水質や生物を調べてみよう
ビオトープ⁵作りを広げよう
四季おりおりの花づくりを広げよう
佐川町の花マップをつくろう
牧野博士ゆかりの植物や佐川の町木ワカキノサクラなどを増やそう
ゴミをつくらない工夫をしよう
ゴミのポイ捨ては絶対にやめよう
小中学校のクリーンキャンペーンにみんなで参加しよう
ゴミの不法投棄をなくそう
ペットのフンの後始末をしよう

続けよう・広げよう

河川敷の草刈
合併浄化槽の普及
中学校による水質調査
住民参加による河川環境整備
環境美化の標語づくり
地域ごとの花づくり
ゴミの持ち帰り運動
生ゴミの堆肥化
町内一斉清掃に参加しよう
ゴミだしの決まりを守ろう
アルミ缶の回収リサイクル
ホタルの住める川づくりをしよう

町行政の支援体制

活動目標「美しい自然いっぱいのまち」を達成するための住民活動について、町民課・産業建設課・教育委員会事務局が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、行政計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

地域住民の信頼協力関係を醸成する中で、愛郷心・愛町心が育まれ、ゴミが無く美しい自然づくりの活動が町内各地で花咲くように、情報収集や情報共有できる仕組みを検討します。

⁵ ビオトープ・・・ ビオトープとは、生き物の生息空間のことで、様々な生物が生息できるよう人工的に再生された自然生態系の空間である。例えば、小中学校の構内に教師と生徒たちによって作られたり、また市民のための公園の一角に作られたりもしている。

重点目標 みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち
活動目標 災害に強いまち
実施目標 地域ごとに防災に取り組もう
南海地震に備える
自主防災組織の発展

実施計画

自主防災組織連絡協議会を結成し、防災意識を共有しよう
防災マップをつくろう（見直そう）
家庭での防災用具（用品）を備えよう（点検しよう）
緊急時の連絡網を作ろう
要援護者⁶を把握しみんなで助け合おう
防災リーダーを育成しよう
消防団の活動を学校の授業で教えよう
地区の身近な避難場所を確認しておこう
防災訓練や勉強会を行おう
家の安全点検をしよう
家具の転倒防止の対策をしよう

続けよう・広げよう

婦人防火クラブを増やそう
自主防災組織を増やそう
小学校区の危険箇所・水害安全マップづくり
住民自ら災害に備えよう
災害時要援護者登録制度を活用しよう
地域の中で家の中の点検をしよう（地域安全診断）
地震のことを知る学習
家具の固定、住宅の修繕

⁶ 要援護者・・・要援護者とは、防災行政上、災害時要援護者と言う。災害時、次の条件に一つでも当てはまる人を指す（平成3年度版防災白書）。

- ①自分の身に危険が差し迫った時、それを察知する能力がない、または困難な者。
- ②自分の身に危険が差し迫った時、それを察知しても適切な行動をとることができない、または困難な者。
- ③危険を知らせる情報を受け取ることができない、または困難な者。
- ④危険をしらせる情報を受け取ることができても、それに対して適切な行動をとることができない、または困難な者。

なお、佐川町の災害時要援護者登録制度対象者は次のとおり（平成24年度現在）。

- ・65歳以上の一人暮らしの高齢者、介護保険制度の要介護認定を受けている人、障害者手帳を持っている人（ただし、身体障害者手帳は1～4級）。

町行政の支援体制

活動目標「災害に強いまち」を達成するための住民活動について、総務課・産業建設課・健康福祉課・教育委員会事務局が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、行政計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

自主防災組織づくりや、災害時に住民全体とりわけ災害時要援護者が取り残されないように、それぞれの地域での日常のつながりづくりや、見守りの仕組みづくりを提案していきます。

また、大規模災害発生後の災害時要援護者等の生活復旧等を支援する災害ボランティアセンターについても、毎年訓練を重ねて万一の災害に備えていきます。

重点目標 みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち

活動目標 安心して暮らせるまち

実施目標 交通事故をなくそう
SOSが出せる環境づくり
防犯意識をたかめよう
子どもの安全を守ろう

実施計画

地域イベントなどを利用した啓発活動しよう
交通安全手づくり標語をつくろう
反射板、蛍光板を身に付けて歩こう
外出時は戸締りを徹底しよう
悪徳商法に関する情報をみんなで知ろう
地域ぐるみで悪徳商法を撃退しよう
街灯を増やして防犯に役立てよう
子ども・大人・高齢者全ての人々を対象としたあいさつ運動を拡げよう
SOSが出せるつながりを持とう（DV、虐待、経済的困窮など）

続けよう・拡げよう

通学（朝）時交通安全指導
集いの場での地域安全教室
悪徳商法に引っかからない声かけ
新聞配達員の見守り活動
子どもの下校時の見守り
子どもの家110番
PTAこどもパトロールたすきステッカー
知らない人についていかない
民生児童委員あいさつ運動
日暮れ前の子に帰宅を促そう
交通安全教室を開催しよう
登下校に合わせて地域で見守ろう
通学路の安全マップをつくろう
子どもと高齢者を交通事故から守ろう
自転車の安全運転をすすめよう
飲酒運転防止は家庭から

町行政の支援体制

活動目標「安心して暮らせるまち」を達成するための住民活動について、総務課・健康福祉課・教育委員会事務局が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、行政計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

「地域は地域住民で守る」という意識づくりを「みんなで福祉のまちづくり委員会」や関係団体と協力連携し行っていきます。

重点目標 みんなが主役 地域おこしで元気なまち
活動目標 あなたが好き このまちが好き
実施目標 地域おこしの推進
若い頃から地域に参加
ふれあい交流の町づくり
空き家活用の定住対策
住民の地域参加
観光振興
スポーツ・文化振興
若者のリーダー育成

実施計画

地域のリーダーを育成しよう
世代間交流を推進しよう
若者パワーを活用しよう
地域の中で役割をもとう
佐川の桜を守り育てよう
うもれた観光資源の掘り起こしをしよう
佐川独自の地層・地質をアピールしよう
地域文化を発掘、文化イベントを開催しよう
観光ボランティアにみんなで参加しよう
子どもの頃から地域になじむ取り組みをしよう
大人の学校（講座など）で地域の再勉強をしよう

続けよう・広げよう

とかの元気村
夢の里つくり隊
尾川地区活性化協議会
平野ふれあい元気村
たらふく秋まつり
城山祭り
佐川踊りの継承
斗賀野文化の会
佐川くろがねの会
地区民運動会
伝統芸能（太刀踊り、花取り踊り、瑞応の盆踊り、尾川おどり）
健康福祉大会
桜の名所
住民参加による奥の土居周辺の整備
文化推進協議会
芸能祭
地域の祭りに学校も参加しよう
地域行事への参加をしよう
重要文化財を守ろう
シルバー人材センターを活用しよう
みんなで集まり、楽しくスポーツをしよう（体育会、総合型スポーツクラブなど）

町行政の支援体制

活動目標「あなたが好き、このまちが好き」を達成するための住民活動について、産業建設課・教育委員会事務局が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、行政計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

お祭りやイベントなどを通して、自分のまちを好きになり大切にしていく心の醸成や、仲間づくりやお互いの協力が発展していくように、関係機関と連携して地域の祭りやイベントをバックアップできるネットワークを構築していきます。

重点目標 みんなが主役 地域おこしで元気なまち
活動目標 みんなで作ろう佐川ブランド
実施目標 商店街の活性化
農地を使った学習世代間交流
農業の活性化（専業・兼業）
地産地消・地産外商の推進
高品質・付加価値のあるものづくり
働く場の確保
I T 活用で情報発信

実施計画

ホームページを作成しよう
商店街のイベントを増やし話題を作ろう
恵美須祭・文殊祭を盛り上げていこう
特産品の開発・掘り起こしをしよう
佐川ブランド（特産品）を活かした販売店を作ろう
1次「作る」・2次「加工する」・3次「売る」の連携を強化しよう
地域の産業を応援し、働く場を拡げよう

続けよう・拡げよう

企画本舗さかわ屋による商店街の活性化
シャッターペイントの活用
空き店舗対策
地場産品の販売拡大（ニラ・米等）
食をテーマにした新商品の開発
はちきんの店による地産地消の推進
地域で働く若い世代の応援
町並み等のライトアップをしよう
加工商品を独自に開発しよう
農地を使った世代間交流

町行政の支援体制

活動目標「みんなで作ろう佐川ブランド」を達成するための住民活動について、産業建設課が中心となり積極的に支援します。

また、実施目標・実施計画の各項目に関わる行政施策・事業について、行政計画等との整合を保ちながら住民と協働して推進します。

町社会福祉協議会の支援体制

産業関係機関・団体との連携をすすめ、地域全体で地産地消・地産外商が拡大するよう住民全体の意識醸成に繋がる情報提供などを行っていきます。

また、地域のマンパワーが商品開発や販売などの活動と結びつくように、ボランティアセンター機能も強化していきます。

第3章 佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画

(地区計画)

(掲載順)

佐川地区

斗賀野地区

尾川地区

黒岩地区

加茂地区

佐 川 地 区 計 画

地区計画策定の背景

佐川地区においては、地域への帰属意識の低下による地域の絆の脆弱化、高齢化などもあいまって地域での諸活動の停滞や存続が危ぶまれており「困ったときはお互い様」の“支えあえる地域づくり”の土台が揺るがされつつある。

一方で、自主防災組織活動で地域の繋がりを再構築する動きや、支えあうまちづくりで若者流出減少、地区が持つ文化・観光資源活用と住民活動の融合なども議論されつつある。

このように将来への不安や期待がありつつも、利便性の高い中心地という安心感と広範囲性が、住民の主体的活動や一体感の醸成に障害になっているともいえる。

これに対し、部落内での交流を通し顔が見える地域を基礎に、地区全体では防災、見守り、交流や観光、人口増加などを協議し、行政等と協働できる場の創設が求められている。

目指すありかた地域像・ビジョン・スローガン

人とひと つながれひろがれ 我が町さかわ

私たちの重点取り組み

- つながり深める交流の機会づくり
 - ◆集落ごとに話し合う場づくり（部落組織の活性化）
 - ◆人が集まるイベント（花見・佐川おどり・B級グルメ大会など）
 - ◆自主防災組織の発展（全地区設置・自主防組織同士の連携・活動充実）
 - ◆日頃から声かけあえる地域づくり ◆農地を使った学習世代間交流
 - ◆集落（部落）ごとに花見や行事で地域力向上
 - ◆青年サークル・趣味のサークルを結成
- 高齢者が安心して暮らせる地域づくり
 - ◆百歳体操・ふれあいサロンを充実 ◆SOSが出せる環境づくり
- 子育てしやすく若者が住みたい地域づくり
 - ◆空き家活用の定住策 ◆営農グループの組織化
 - ◆子育て支援 ◆若い頃から地域に参加
 - ◆声かけあって子どもの見守り（地域をウォーキング）
- 町の資源をフル活用した地域おこし
 - ◆IT活用で情報発信 ◆佐川土産の開発
 - ◆直販所づくり

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・ みんなで福祉のまちづくり佐川支部
- ・ 関係団体（消防団、自主防災組織、部落長会、佐川地区民生委員児童委員、小中学校 PTA、保育園保護者会（若草、花園）、商工会（青年部・女性部含）、くろがねの会、老人クラブ、百歳体操お世話人、ふれあいサロン協力員）
- ・ 地域の拠点 あったかふれあいセンター・集落活動センター

斗 賀 野 地 区 計 画

地区計画策定の背景

佐川町内の人口の約23%を占める斗賀野地区は、少子高齢化は徐々に進んでいるものの、平成24年3月末現在の高齢化率32.1%は町内全域の高齢化率を若干下回っており、人口の減少も町内では比較的緩やかとなっている。虚空蔵山などに囲まれた盆地で自然に恵まれた静かな田園地帯が広がり、その地勢や気候を利用した水稻、ニラなどの農業が盛んな地区となっている。また、地区内にはJR斗賀野駅・襟野々駅があり、国道494号が地区の中心部を通るなど、交通の便は比較的よい。

平成17年に設立したNPO法人「とかの元気村」を中心とした地域活動が活発で、風土と合わせて、斗賀野地区に魅力を感じた町外からの転入者も多い。

比較的コミュニティ活動が活発な地域ではあるが、計画策定にあたって実施した地域のお世話役さんに対するアンケートによると、今後取り組むべき課題として、自主防災活動、地域コミュニティづくり、人口減少対策が他の4地区と同様に上位にあがっており、地域の絆や人のつながりを大切にしたいという思いが現れている。また、自然環境、健康づくりに対する住民意識が高く、環境活動や介護予防・健康づくり活動なども盛んな地域でもある。

目指すありかた地域像・ビジョン・スローガン

近所づきあい たすけあい 笑顔つながる里づくり

私たちの重点取り組み

○自然をまもり育てる

- ◆ホタルが住みつくきれいな川にしよう
- ◆草花を育て自然の風景をまもう

○高齢者、障がい者などへの生活支援

- ◆近所づきあいを大切にしよう
- ◆助け合い組織をつくろう

○こころと体の健康づくり

- ◆男性が参加できる百歳体操にしよう
- ◆四季を通じてウォーキングしよう
- ◆こころと体の健康チェックをしよう

○ひとづくり・交流

- ◆とかの元気村を充実発展させよう
- ◆地域のイベントに参加しよう
- ◆地域の文化・伝統をまもう
- ◆誰でも気軽に集える場をつろう
- ◆農業の後継者を育てよう

○防災活動の充実

- ◆危険地域を点検しよう
- ◆全部落に自主防災組織をつくろう
- ◆発災時に生かせる防災訓練をしよう

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・ 推進主体 みんなで福祉のまちづくり斗賀野地区部会
- ・ 関係組織 NPO法人とかの元気村、斗賀野地区部落長会、斗賀野よさこいクラブ、斗賀野地区自主防災組織連絡会、コスモス農協斗賀野支所、JAコスモスにこにこ会斗賀野支部、斗賀野中央保育園保護者会、永野保育所後援会、斗賀野小学校PTA、町消防団斗賀野分団、サロン・百歳体操世話人、民生委員児童委員、福祉委員、その他当計画の推進に協力して下さる組織など
- ・ 地域の拠点 とかの元気村役場、あったかふれあいセンター、集落活動センターなど

尾川地区計画

地区計画策定の背景

尾川地区は佐川町の中で高齢化率が41%と高く、少子高齢化及び過疎化が進んでおり、今後もこの傾向が続くと予想される。

アンケート等では、「人口減少対策」・「高齢化が進んで、活動が停滞している」の課題が他の地区より相当高く、人口減少やお世話役さん等の後継者不足による地域の衰退が課題。また、交流の場が少なくなり住民同士の支え合いの力も弱まるなど、地域の将来に不安を感じている。

これら諸問題を解決するために、若者定住・結婚の機会づくり、若者の地域活動への参加、高齢者による健康づくりや介護予防、住民どうし仲良くなれる活動が求められており、地域活動として、自主防災組織の充実、地域のコミュニティづくり、部落組織の活性化、生活支援の仕組みづくりなどが上げられている。

目指すありかた地域像・ビジョン・スローガン

未来に夢を 明るい尾川

私たちの重点取り組み

○生活支援の仕組みづくり

◆困りごとの解消

◆交通手段の確保

○地域の活性化

◆若者定住対策

◆世代間交流

◆後継者の育成

◆地域文化の掘り起こし

○健康づくり

◆介護予防の取り組み

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・ 推進主体 尾川地区活性化協議会（みんなで福祉のまちづくり尾川地区部会）
- ・ 関係組織 尾川地区自主防災組織連絡会、尾川地区部落長会
保育園保護者会・小中学校PTA、尾川分団、百歳体操世話人
民生委員、福祉委員、あったかふれあいセンター運営委員会
みこしや、婦人防火クラブ、キッチンやまぼうし、尾川老人クラブ
- ・ 地域の拠点 あったかふれあいセンターもしくは集落活動センター

黒岩地区計画

地区計画策定の背景

黒岩地区は、特産品を生かした産業振興等の地域おこしや、伝承芸能や祭りの継承保存に積極的に取り組んでいる一方、少子高齢化が進み、高齢化による活動の停滞、後継者不足、人口流出、地域のつながりの脆弱化といった課題を抱えており、地域の将来に不安を感じている。

また黒岩で安心して暮らし続けていく上で、高齢者や障がい者の移動手段の確保、防災・水害対策、地域の活動拠点整備等への行政や地域住民からの早急な支援を求めている。

これら課題や目標を解決するために、生活支援の仕組みづくり、自主防災組織活動、地域のコミュニティづくり、若者定住促進、部落組織の活性化、集落活動センターを拠点とした住民主体の取り組み等の必要性が上げられている。

目指すありかた地域像・ビジョン・スローガン

いきいき黒岩 和になろう

私たちの重点取り組み

- 高齢者が安心して暮らせる地域づくり
 - ◆高齢者等の移動手段の確保 ◆買い物難民をなくす ◆生活支援をする
- 若者が住みたくくなるような地域づくり
 - ◆人が訪れる地域に ◆若者定住
- 災害に強い地域づくり
 - ◆防災拠点を つくる ◆水害のない地域にしたい ◆自主防災組織設置と活性化
- 後継者づくり
 - ◆農業後継者を増やす ◆若者のリーダー育成
- 集落活動センターづくり
 - ◆地域資源を生かして特産品をつくって地域の活性化
 - ◆世代間の交流の場がほしい ◆若者のリーダー育成

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 黒岩いきいき応援隊（みんなで福祉のまちづくり黒岩地区部会）
- ・関係団体 自主防災組織、水害対策会議、消防団黒岩分団、黒岩中央保育所保護者会、黒岩小中学校 PTA、黒岩親の会、部落長会、民生委員児童委員、イベント関係者、農業関係団体、黒岩老人クラブ、百歳体操お世話人、保黒岩育所、黒岩小学校、黒岩中学校、その他当計画の推進にご協力くださる方
- ・地域の拠点 あったかふれあいセンター・集落活動センター

加 茂 地 区 計 画

地区計画策定の背景

佐川町で最も高齢化率が低い地区であるが、高齢者対象の第五期介護保険事業計画策定に関するニーズ調査では、閉じこもりや認知症予防の必要性が最も高い地区であった。

地区の高齢者はここで暮らしていく上で、通院や買い物などへの不安を感じており、行政や地区住民からの将来的な支援を求めている。

世話役は後継者不足や高齢化による活動の停滞、地域の繋がりの弱さ、話し合う機会がない事などを問題として捉えている。

これら諸問題を解決するために、後継者の育成を図る活動、高齢者による健康づくりや介護予防、住民どうし仲良くなれる活動が求められており、地域目標として、自主防災組織の充実、高齢者・障害者支援、地域のコミュニティづくり、若者定住促進、部落組織の活性化などが上げられている。

目指すありかた地域像・ビジョン・スローガン

交流で つちかう絆と 人づくり

私たちの重点取り組み

○人づくり・交流

- ◆ 夏祭りの復活
- ◆ 交流機会の充実
- ◆ ウォーキング組織の充実
- ◆ 定住の促進

○防災・減災活動

- ◆ 自主防災組織の充実

○高齢者等への生活支援

- ◆ 高齢者の暮らしを守る

○地域の活性化

- ◆ 休耕田の有効活用で地域の活性

○健康づくり

- ◆ 高齢者自身による健康づくりの取り組み

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・ 地域づくり本部（関係組織のトップ及びアドバイザーで構成）※今後名称を検討。
- ・ 関係組織 みんなで福祉のまちづくり加茂地区部会、加茂地区自主防災組織連絡会
加茂地区部落長会、保育園保護者会・小中学校PTA、加茂分団、環境
を守る会、ウォーキングの会、こじゃんとはたら来家さかわ、百歳体操世話人、
民生委員、福祉委員、その他当計画の推進に協力くださる方
- ・ 地域の拠点 あったかふれあいセンターもしくは集落活動センターの設立

第4章 計画推進体制

1 推進体制について

第1次計画では、この計画をどこにでもある金太郎飴のような計画ではなく、佐川町に住む私たちが直面している具体的な生活課題や目指すべき将来像を反映したものにするため、策定の前段階から地域住民が主体となって座談会、研修会を重ね、異例ともいえる3年間という長い期間をかけて計画づくりに取り組みました。策定後も、「絵に描いた餅」にしないために、毎年度、みんなで福祉のまちづくり委員会等で検討し、地域住民が主体となって進捗状況を把握しながら推進してきました。

第2次計画においても、みんなで福祉のまちづくり委員会を中心にした住民主体の推進体制を維持し、さらに、第1次計画にはなかった地区計画を具体的に推進していくため、あったかふれあいセンターや集落活動センターなどの各地区の拠点づくりと合わせて、各地区部会の体制強化を図っていきます。地区計画の推進にあたっては、各地区部会を推進主体としながら、それぞれの地区の実情に合わせた体制を組むこととします。第1次計画では必ずしも十分でなかった町行政の支援や関わりも積極的に行っていきます。また、重点的・専門的に取り組む事項については、必要に応じて専門部会を設置するなど、より効果的に取り組めるよう臨機に対応していきます。

この地域福祉計画・地域福祉活動計画では、私たち住民が佐川町全体、各地区単位、または各部落で、様々な生活課題や地域づくりに対して取り組むべき活動、取り組んで欲しい内容を盛り込んでいます。一人ひとりのちょっとした勇気と行動があれば、この計画は独りで動くようにできています。しかし、誰かが、どこかがやってくれるという思いであれば計画はさび付いて動かなくなってしまう。地域の一人ひとり、様々な団体がともに、この地域では何が必要か話し合い、地域の合意と関係機関の協力のもと、スクラムを組んで活動を進めていくことが必要です。

その話し合いをする場（組織）が、下記の「みんなで福祉のまちづくり委員会」、「地区部会」及び「専門部会」であり、それぞれの組織が互いに連携しながら計画を推進していきます。

2 みんなで福祉のまちづくり委員会

この委員会では、佐川町全体の計画について進行管理を行います。

計画の進捗状況の把握や評価、町全体の取り組みについての検討・実施、各地区部会・専門部会の取り組み支援などを話し合います。

全体計画の各年度における取組方針や進捗評価などを話し合う定例総会を年1回開催するとともに、必要に応じて臨時の会議を開催します。

3 地区部会

旧町村単位の地区を土台とした地区の活動について検討・実施する部会です。

地区部会は、地区計画の推進主体として、関係団体や地区内の部落との連携・調整を図り、地区計画の進行管理を行います。また、町全体計画に基づく地区内の活動にも取り組みます。

「みんなで福祉のまちづくり地区部会」を運営主体に、各地区で活動している団体や個人により構成し、年数回程度、各地区の実情に合わせた形で会議（話し合い）を行います。会議には必要に応じて、事務局及び町行政・町社会福祉協議会の職員も同席し、地域と行政・社会福祉協議会が一体となって地区計画の取り組みを推進します。

4 専門部会

地区を越えた同一の分野で必要に応じて専門部会を設置し、課題について検討・実施を行う部会です。

専門部会は、特定の課題について地区の中だけでは解決が難しいようなものやその他必要に応じて設置し、関係者等が集まって課題に取り組みます。

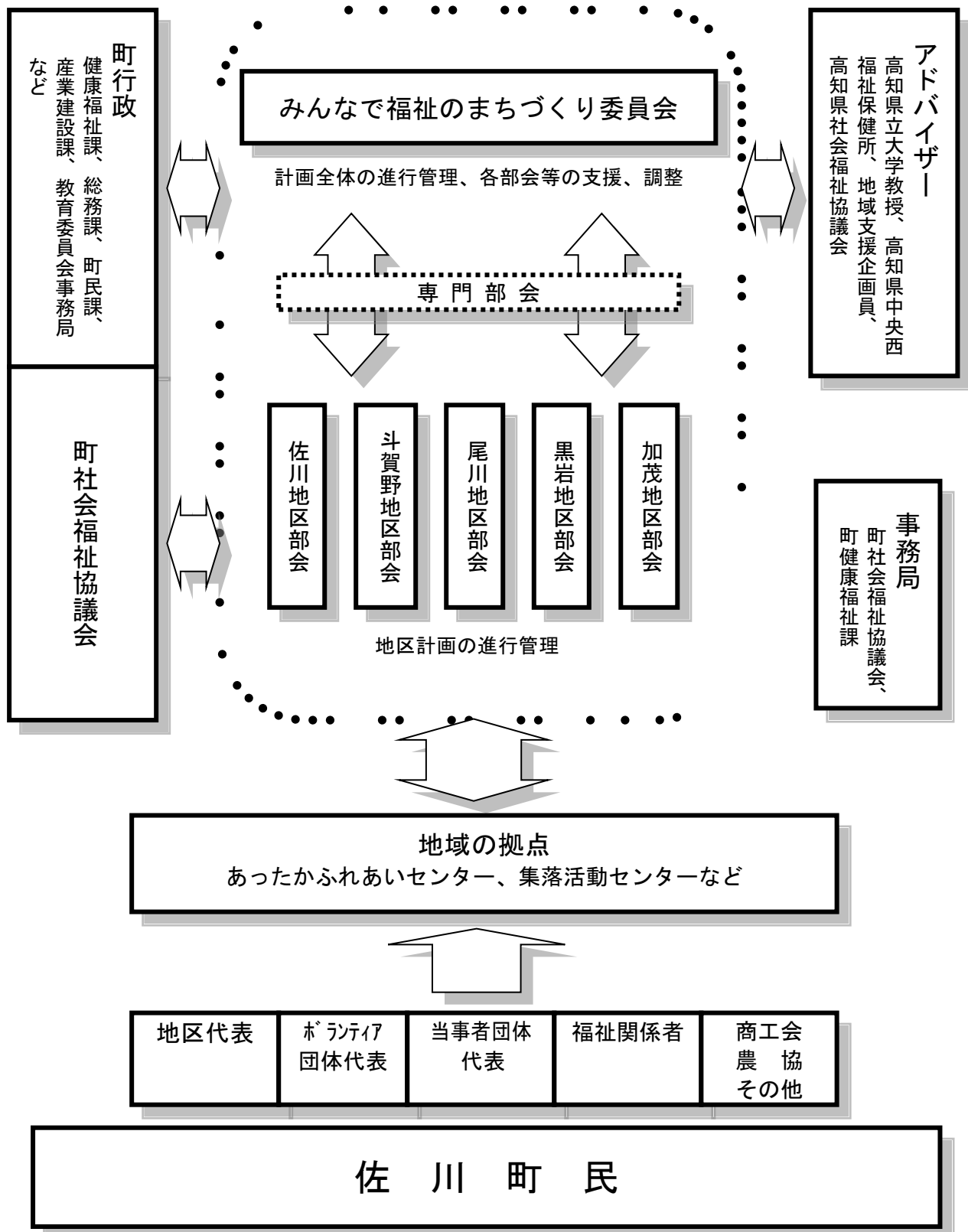
5 町民としての心得

地域のことは、「他の誰かがやってくれる」と他人ごとで終わらせていいのでしょうか。他の誰かもあなたに期待をしているかもしれません。たとえ直接関われなくても、出来る何か、応援できる何かがあるのではないのでしょうか。

みんなが、ほんの少し、協力することで、活動への理解を示すことで地域は変わります。

さ・・・参加しよう	地域のイベントや活動に積極的に参加しましょう
か・・・考えよう	何事も相手の立場で考えましょう
わ・・・「わ」をつくろう	友達や地域の「輪」で「和」をつくりましょう

みんなで福祉のまちづくり推進体制



第5章 資料編

1 地域の活動実践例

1 福祉団体・ボランティア団体

- (1) 佐川町民生児童委員協議会
- (2) 佐川町赤十字奉仕団
- (3) 佐川町老人クラブ連合会（佐川町よさこいクラブ連合会）
- (4) 佐川町身体障害者協議会
- (5) 佐川町手をつなぐ親の会
- (6) J A コスモスにこにこ会
- (7) J A コスモス赤い^{ふんどし}隊
- (8) 佐川町食生活改善推進協議会

2 見守り活動、生活支援活動

- (1) 佐川町ふれあいサロン
- (2) いきいき百歳体操グループ活動たちあげ支援
- (3) 見守り声かけネットワーク
- (4) 佐川子育てサポートたんぽぽの会

3 地域おこしの団体・イベント・取り組み

- (1) とかの元気村
- (2) 尾川地区活性化協議会
- (3) 企画本舗さかわ屋
- (4) 夢の里つくり隊
- (5) 佐川くろがねの会
- (6) さかわ観光協会

4 その他

- (1) イーハトーブ佐川
- (2) 自主防災組織
- (3) 小中校連携プルタブアルミ缶収集活動

佐川町で行われている地域の活動の一部をご紹介します。皆様が地域で何かを取り組む際の参考になればと思います。

また、上記の他にも皆様の周りでたくさんの地域のためのイベント・取り組みが行われています。ぜひご理解いただき、ご協力やご参加をお願いいたします。

組 織 名：佐川町民生児童委員協議会（通称：民児協）会長 渡辺 忠直

構 成 員：49名

（厚生労働大臣より委嘱された民生委員児童委員で構成。3年任期）

役員（会長1名、副会長2名、地区長6名、監事2名）

活動範囲：佐川町全域

活動概要：①住民の生活全般の相談役、②高齢者の見守り活動（訪問、毛布の洗濯、福祉委員や関係機関との連携による見守りなど）③赤ちゃん訪問・新入学児童訪問、④関係行政機関等への協力⑤相談支援者として必要な研修実施・参加などの活動を、地域の皆様から相談されやすい関係を築きながら、安心して暮らせるまちづくりに貢献しています。

団体PR：民生委員児童委員は民生委員法と、児童福祉法に基づいた公的なボランティアです。住民の皆様のご相談に乗り、解決に協力し、また秘密を守る義務もあります。お困りごとがありましたら、何なりとご相談ください。またこちらから、地域の皆様にご協力をお願いすることもあります。その際にはよろしくをお願いします。

事 務 局：佐川町社会福祉協議会内 電話 22-1510

組 織 名：佐川町赤十字奉仕団 委員長 西田 芳子

構 成 員：約180名

役員（委員長1名・副委員長5名・監事2名・会計1名・委員若干名・現在8名）任期2年

活動範囲：主として佐川町全域（中央西広域地域・高知県全域）

活動概要：献血の手伝い（年8回）、春日荘・高北病院の清掃（年10回）主に草引き、24時間テレビでのゴミの分別指導、健康福祉大会での災害時における炊き出しの実演・バザー、県が行う防災リーダー研修会や地域住民を守る災害救護救援研修会に積極的に参加、リーダーの育成にも力を入れています。日頃の労をねぎらい、団員同士の交流を深めるために一日研修も行っています。

団体PR：団員一同、明るく住みよいまちづくりのために、日々奉仕の精神に努めています。「私にも何か出来る事はないかしら？」とと思っているあなた、一緒に活動しませんか。年齢は問いません、声をかけてください。

事 務 局：佐川町社会福祉協議会内 電話 22-1510

組 織 名：佐川町老人クラブ連合会（愛称：佐川町よさこいクラブ連合会）

構 成 員：９３０名

役員（会長１名、副会長５名、部長３名（事業部、体育部、女性部）、監事２名、顧問１名）任期２年

活動範囲：主として佐川町全域（中央西広域地域・高知県全域）

活動概要：老人クラブの活性化を図ると共に、新会員の加入促進、高齢者健康づくり運動の推進、高齢者交通安全活動の推進、高齢者傷害保険加入促進活動、などを中心に生涯スポーツへの参加など、生き甲斐づくりなどを行っている。

団体ＰＲ：高齢者が地域において、お互い助け合い、励まし合い、共に交流と親睦を深め、健康と生き甲斐、日常生活の充実を図り、地域社会の中で活動を通じて社会奉仕を進めるなど、少子高齢化社会で存在意義を高める事に取り組んでいます。若い高齢者の方々の加入を強く望んでいます。若い力で老人クラブを支えてくださるようお願いします。

事 務 局：佐川町社会福祉協議会内 電話 ２２－１５１０

組 織 名：佐川町身体障害者協議会 会長 松本 清光

構 成 員：１８０名 佐川町に在住し、本会の趣旨に賛同する身体障害者福祉法第４条の手帳所持者及びその家族、又は同手帳を受けようとする者、ボランティアで構成。役員（会長１名、副会長２名、会計１名、前記役員を含む理事１４名、監事２名、代議員２６名）

活動範囲：佐川町全域（上部団体の中央西広域身連、県身連、日身連あり連携）

活動概要：①総会・福祉大会・地区別交流研修会開催、系統団体研修会等へ参加、社会の理解を高める活動・国の制度改善運動展開。②町・中央西運動会・県障害者スポーツ大会、週２日のペタンク・グラウンドゴルフ教室、同競技の町老連・近隣市町村との交流試合、ボウリング大会、年４回の料理教室・年各６回の絵手紙教室・ちぎり絵教室・随時のパソコン教室、春秋のふれあい旅行で健康増進を中心に友愛を深め明朗闊達な人づくりや今日に至る。③町の福祉タクシー制度創設や環境調査を素にしたエレベータ・障害者トイレの設置など町内のバリアフリー化の推進④現在町営の福祉移送システムの導入運動を展開中。

団体ＰＲ：町内の身体障害者は当会に加入、町営の福祉移送システムの導入運動及び障害者自立支援法、後期高齢者医療の改善運動に参加を乞う。

事 務 局：佐川町社会福祉協議会内 電話 ２２－１５１０

組 織 名：佐川町手をつなぐ親の会 会長 藤田千砂

構 成 員：44名

役員（会長1名、副会長2名、会計1名、監事2名、理事数名）

活動範囲：佐川町全域

活動概要：全日本手をつなぐ育成会全国大会、手をつなぐ育成会四国大会、高知県知的障害者育成会（高知県手をつなぐ育成会）、親子研修、施設研修、クリスマス会、新年会、月例会（木の会）

団体PR：佐川町における知的障害を持つ人の健常なしあわせを高めることを目的とし、目的に賛同する人で組織しています。

障害にはいろいろあり、一人ひとりの障害の状態はみんな違っています。そして、一人ひとり特別な支援を必要としています。

手をつなぐ親の会は、皆様に支えられて活動をしています。皆様のご支援をお願いいたします。

事 務 局：佐川町社会福祉協議会内 電話 22-1510

組 織 名：JAコスモスにこにこ会斗賀野支部 支部長 西森 千恵子

：JAコスモスにこにこ会佐川支部 支部長 野中 喜代子

構 成 員：112名

役員（支部長1名、副支部長2名、監事2名）

活動範囲：佐川町管内

活動概要：○高齢者の見守り活動（見守りネットワーク体制）

○ふれあいサロン（佐川町社協より受託のミニデイサービス）9ヶ所

○関係行政機関等への協力

○病院・施設への慰問等

○給食サービス

団体PR：「出来ることを出来るときに」をモットーに、全員が自らの介護予防も合わせて活動しています。

事 務 局：コスモス農業協同組合福祉生活部佐川支所 電話 22-7809

斗賀野支所 電話 22-1148

組 織 名：ＪＡコスモス赤い^{ふんどし}禪 隊 隊長 中村 卓司

構 成 員：４２名

ＪＡコスモスの赤い禪隊の目的に賛同する男性で構成

役員（隊長１名、副隊長２名、監事２名、役員２名）任期２年

活動範囲：ＪＡコスモス全域

活動概要：１．ＪＡ運動を理解し、その推進に関すること

２．男性の権利、地位、教養の向上に関すること

３．営農並びに生活面活動の向上に関すること

４．男性の健康改善に関すること

５．各種講演会、研究会の開催等、学習活動に関すること

６．女性部、にこにこ会等関係団体との連絡提携に関すること

７．その他目的達成に必要な事項

上記事業の推進にあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

事 務 局：コスモス農業協同組合福祉生活部 電話２２－７８０９

組 織 名：佐川町食生活改善推進協議会 会長 矢野 博子

構 成 員：５４名

役員（会長１名、副会長２名、会計１名、理事５名）

活動範囲：佐川町全域

活動概要：①子供達を対象に食育の普及啓発②高齢者等の低栄養予防を目的とした
料理教室③食事バランスガイドの普及啓発④地産地消の推進

団体ＰＲ：食生活改善推進協議会は『私達の健康は私達の手で』をスローガンに掲げ、
地域での食生活の改善推進を図ることで地域住民の健康を改善し、福祉の
増進に寄与すること目的として活動している全国組織で、全国に約２０万
人の推進員（ヘルスメイト）が活動しており、佐川町食生活改善推進協議
会は昭和５９年３月に設立し、現在５４名の推進員が活動しています。（平
成１７年には長年の活動の功績を認められ厚生労働大臣賞を受賞しまし
た。）近年は食育の推進に重点を置いて活動しており、平成１２年から佐
川町内の全ての学校、保育園へ年度当初に訪問し、協議会の活動をＰＲす
ることで、現在では多くの学校、保育園より食育講座や調理実習の依頼が
あります。また、「おやこの食育教室」、「生活習慣病予防教室」や「高齢
者の低栄養介護食講座」など大人を対象にした食育講座、調理実習も積極
的に行っています。

事 務 局：佐川町健康福祉課介護ほけん係内

佐川町食生活改善推進協議会事務局 電話 ２２－７７０９

事業名：佐川町ふれあいサロン（佐川町地域介護予防活動支援事業）

構成員：参加者 222名

協力員 94名（JA コスモスにこにこ会、社協登録ボランティア）

活動範囲：佐川町全域（現在14ヶ所にて開催）

活動概要：毎月1～2回（10:00～15:00）、公民館や老人憩いの家等で開催。うた、健康体操、創作活動、おしゃべり、ゲーム、昼食、世代間交流、出前講座、サロン交流会、健康福祉大会への参加協力など、地域ごとに、参加者と協力員がアイデアを出し合いながら、こころもからだも健やかに楽しい一日を過ごしています。参加費は1回500円（昼食、おやつ代）です。

活動PR：平成11年度より、高齢者の介護予防、生きがいづくり、仲間づくり、地域ぐるみの憩いの場を目的に開催しており、サロンを拠点とした見守りと支えあいの輪が広がっています。誰もが気軽に参加できる身近な集いの場として、住民同士助け合いながら活動していますので、ぜひご支援よろしくお願いします。随時参加者と協力員を募集していますので、お申込は下記事務局までご連絡をお願いします。

事務局：佐川町社会福祉協議会 22-1510

事業名：いきいきかみかみ百歳体操グループ活動たちあげ支援（佐川町地域介護予防活動支援事業）

構成員：参加者671

活動範囲：佐川町全域（現在45ヶ所にて開催）

活動概要：地域ごとに自主グループを立ち上げ、公民館、学校、個人宅などで毎週1回以上「いきいきかみかみ百歳体操」を実施しています。

活動PR：いきいき百歳体操は、高齢者の方に合わせて考えられた「おもり」と「バンド」を使ったゆっくりとした体操で、週2回程度行くと筋力とバランス効果を高める効果があり県内各地で実施されています。佐川町では平成18年度よりグループ活動支援が始まりました。また「かみかみ百歳体操」は口腔機能の向上を目的に平成23年度より広まっています。参加者からは、「歩くのが楽になった」、「飲み込みが楽になった」、「みんなに会えるし体操の日が楽しみ」とのうれしい声が寄せられており、介護予防、交流、見守りの場として地域に広がっています。週1回以上、いきいき百歳体操に取り組む5人以上の構成員によるグループに対して、活動費を助成していますので、（活動費助成の対象：65歳以上）活動ご希望の方は、下記事務局までご連絡をお願いします。

事務局：佐川町健康福祉課 22-7709

佐川町社会福祉協議会 22-1510

事業名：見守り声かけネットワーク

構成員：民生委員児童委員・福祉委員・地域包括支援センター・JA コスモスに
こにこ会、ふれあいサロン協力員、百歳体操お世話人、あったかふれ
あいセンター、社協

活動範囲：佐川町全域

活動概要：独居高齢者等の見守り体制について情報交換等を行っています。

活動PR：地域の独居高齢者の方などへ声かけなどを通して、見守り活動をして
います。お声がけなどで日常的に接することで何気ない変化にも気づ
いて、一命を取りとめた事例などもあります。

体の安否だけでなく、心配ごとなどの相談にのったり、悪質商法の
被害防止などさまざまな面で「安心して暮らせるまち」へ貢献をして
います。

一人でも多くの、何気ない声かけや見守りが大切です。皆様のご理
解とご協力をお願いします。

事務局：佐川町社会福祉協議会 22-1510

組織名：佐川子育てサポートたんぽぽの会

会長 鎌倉アツ子

構成員：17名

県教育委員会より委嘱された家庭教育サポーターと協力員で構成。

役員（会長1名、副会長1名、会計1名、監事1名）

活動範囲：佐川町内

活動概要：①子育て中の母親への支援、オヤツ作り等を通して親子と交流する中で子
育てのアドバイスなどをする。母親達は、参加者との交流の中で日頃の育
児のストレスも解消する。②子育て支援者の輪が広がるように、家庭教育
サポーター、協力員も共に勉強会を開いて研修をする。県や他市町村の研
修会に参加する。③行政機関等への協力。かわせみの子育て応援事業への
協力。図書館事業への協力。

団体PR：広報さかわに日程が載りますので、誘い合って申込をお願いします。たん
ぽぽの会で共に活動してくださる方、下記までお電話をよろしくお願いし
ます。

連絡先：吉原 孝子 電話 22-3230

鎌倉 アツ子 電話 22-3202

組織名：特定非営利活動法人 とかの元気村 理事長 庄野 孝也

構成員：会員数 154 人

役員(理事長(村長 1 名、副理事長 2 名、理事 9 名、監事 3 名)任期 2 年

活動範囲：斗賀野地区を基盤とした佐川町全域

活動概要：斗賀野地区活性化のための地域づくり活動

①指定管理事業(町立図書館、あおぞら公園、わんぱく広場)による町施設の管理運営活動

②自然環境保護活動(虚空蔵山草刈り(夏・冬)、河川環境整備、希少植物の保護増殖活動(ササユリ、ノカンゾウ)

③地域イベント開催事業(たらふく秋まつり、健康ウォーク、作品展、斗賀野地区新年会、地区敬老会、ササユリ鑑賞会)などを実施

④広報活動(機関誌「好きですとかの通信」発行(年 2 回))

団体PR：は、佐川町斗賀野地区で、地域を住みやすく、元気で生き生きと暮らすため共助による住民参加で地域づくりを行う NPO 法人です。

①斗賀野流のスローライフを楽しもう

②のんびり・ゆったり・元気よく生きよう

③農業を中心とした活力ある地域をつくろう

④斗賀野の良さを守り・より良くしていこう

を組織のビジョンに掲げ、好きです「とかの」を合言葉に地域が一つになって活動しています。

事務局：とかの元気村役場 高岡郡佐川町東組 2692 番地

電話(FAX) 0889-22-0448 (吉森 伸郎)

組 織 名：尾川地区活性化協議会 会長 沢村 重隆

構 成 員：53 名

役員(会長 1 名、副会長 1 名、事業部長 1 名、事業副部長 1 名、事務局 1 名、監事 2 名)

活動範囲：尾川地区

活動概要：尾川地区全体の活性化や地域づくりを目的に活動。現在、町指定管理者制度により「ふれあいの里尾川」を管理運営。域の交流を目的に秋祭りを行い伝統技術継承及び子供の育成など目指した取り組みを行っている。女性お料理グループ「キッチンやまぼうし」が高齢者向けおかずの移動販売や、地域の宴会の仕出し料理、ビアガーデンなど地域の活性化に貢献している。

団体PR：町施設「ふれあいの里尾川」を拠点に尾川地区で様々な活動しています。大きなイベントとして毎年秋に尾川秋祭りを開催しています。平成 25 年には集落活動センターを立ち上げて、ますます地域活性化の取り組みを拡充していく予定です。今後も尾川地区の皆さんと手を取り合いながら、地道な活動を目指しています。

事 務 局：ふれあいの里尾川 22-1994

組 織 名：企画本舗さかわ屋 会長 大原 淑道

構 成 員：JA コスモス職員、商工会役員・会員、産業建設課職員、地域元気応援団、
商工会事務局 計 23 名

活動範囲：主として佐川地区～佐川町全域

活動概要：毎月 1 回の定例会を行い、多様な観点から地域振興事業の検討を実施し、佐川町が元気になるための活動を展開しています。今まで、中本町シャッターペイント関連事業や花見事業の主催をはじめ、町内イベント（商工会青年部チャリティービアガーデン、えびす祭り、たらふく秋まつり、健康福祉大会）や県内イベント（土佐二十四万石博、花・人・土佐であい博）などへの参加協力をして、佐川が元気になる取り組みを進めています。

団体 P R：衰退を辿る佐川町の商業への対策協議のための「佐川町の商業を考える会」から発展させ、商業にとらわれず住民と一緒に佐川町全体を考える会にしたいとの思いから平成 15 年 7 月に結成しました。佐川町の抱える様々な問題に対して突破口を見出すべく活動していますのでご協力をお願いします。

事 務 局：佐川町商工会 電話 22-0053

組 織 名：夢の里つくり隊 会長 岩本 正

構 成 員：20 名

会長 1 名、副会長 2 名、事務局 1 名、会計 1 名、監事 2 名、相談役若干名

活動範囲：（1）宇治谷川下流及び日下川本村地区を中心とする加茂地区

（2）末光橋より南の末光道 （3）横田道一部の道沿いの山手

活動概要：佐川町の「がんばれ・広がれ補助事業」をもとに、「こうちけんリバーボランティア支援」及び「地区環境を守る事業参加」を通して、数年にわたる環境整備の充実と維持、保守、管理の継続。他機関との連携、交流。

①川中の葦、両岸及び沿道の草刈り、花木の植樹（補植）、散歩道（芝生）の整備。花の種蒔き、育木の剪定、枝切り。②ベンチ・阿舎等の管理、補充、拡充。③散策道のネーミング案内、花木名の表示。④交流イベント、会員地区民との親睦会⑤任意団体、公的機関等との連携及び助成事業の導入 他

団体 P R：「自由で大らか自由参加」をモットーに、会員制による自主組織団体。自然との素朴な安らぎを図りながら、四季の移ろいを楽しみ会える人と地域の環境づくりをすすめている。またすすむ少子高齢化への世相をみすえ、水辺の散策による健康増進や、阿舎を拠点とする人との出会いや集いを願い、交流の輪の更なる広がりをはかりながら「元気で明るい里づくり」に供する。

事 務 局：夢の里つくり隊 電話 22-7001

組 織 名：特定非営利活動法人佐川くろがねの会 理事長 竹村 脩

構 成 員：会員 75 名、役員（理事長 1 名、副理事長 2 名、理事 7 名、会計 1 名、監事 2 名）

活動範囲：佐川町上町 奥の土居 西谷地区を中心として、佐川町全域に及ぶ。

活動概要：重要文化財竹村家住宅の保存、活用を図るとともに佐川町上町奥の土居、西谷地区を中心とした歴史的町並みや観光振興に資するために活動するので、「佐川まちの駅」を拠点とした観光ガイドや佐川町の歴史文化を顕彰する事業等を行うことにより、地域の発展に寄与し、もって公益の増進を図ることを目的とする。

団体 P R：①竹村家住宅を曜日を決めて一般公開する（毎月第 2 日曜日午前 10 時より午後 3 時まで）②町づくりや佐川の歴史についての勉強会を定期的に実施している。③観光に取り組んでいる先進地の実地研修や町づくりの団体やボランティア団体と積極的に交流を図っている。④町の駅を「くろがねの会観光案内所」として、観光案内所の機能を持たせボランティアガイドによる観光案内や情報発信を行う。また佐川特産品等の物品販売。お茶、コーヒーの接待を行い観光客の休憩所としての場所を提供する。⑤各種イベントや奉仕活動を行う。

事 務 局：佐川町甲 1 2 8 5 番地 NP0 法人佐川くろがねの会 電話 2 2 - 5 2 4 0

組 織 名：さかわ観光協会 会長 足達 宏一郎

構 成 員：町内の商工業者、農業関係者、NPO 法人、また地域づくりにかかわっておられる団体及び個人

活動範囲：佐川町全域及び高知県内外

活動概要：佐川町の総合的な観光事業の振興及び地場産業の振興を図り、もって地域経済の発展及び文化・芸術の振興に寄与することを目的とします。佐川町の「宝物」について、誇りをもって町内外のみなさんに知っていただけるよう、そしてその魅力を後世に引き継いでいけるように、持続的な取り組みを目指します。

団体 P R：観光に関する窓口、施設管理、観光商品の開発、イベントサポート、その他佐川町の総合的な観光事業を担って、魅力ある佐川町を町内外へ発信し、交流人口の増加に繋げていきたいと思っています。現在、会員を募集しています。佐川町の観光事業やまちづくりに参加していただける方、また興味がある方など一緒に佐川町の観光を盛り上げていきましょう。なお、8 月には上町浜口邸へ事務所を開設する予定です。

事 務 局：佐川町産業建設課内 2 2 - 7 7 0 8（浜口邸へ移設する迄）

組 織 名：特定非営利活動法人イーハトーブ佐川

(通称 NPO 法人イーハトーブ佐川) 代表 尾崎 藤吉郎

構 成 員：30名

活動範囲：佐川町全域

活動概要：①環境保全・里山整備保全に関する事業②まちづくり・文化活動に関する事業③安全・防災に関する活動④環境保全に関する子どもへの教育⑤子どもの健全育成に関する事業⑥防災安全、環境整備活動に関する啓発広報活動

団体PR：主に佐川地域において、環境美化・里山保全、防災・安全活動、子どもの健全育成等に関する活動を行っています。

事 務 局：佐川町遊学館内 電話 22-1209 代表電話 22-2586

組 織 名：自主防災組織

構 成 員：地域住民（概ね自治会単位で1組織。複数の自治会で結成の場合あり）

活動範囲：自主防災組織が創られる地域

活動概要：活動内容は、大規模災害時即時に行政の救援を望めないことを想定した、災害時初動の消火や、住民の避難活動、安否確認及び人命救助等の防災・減災を目的とする組織です。

日常的には、住民同士で防災マップなどを利用して災害時要援護者や避難経路の確認、安否確認訓練、救命救急講習、炊出し訓練などを行っています。現在佐川町で73組織設立（平成25年3月末現在）

団体PR：万一の災害に備え、住民同士で要援護者や避難場所及び経路の確認など地域の再確認をしておくことは、安心・安全面で非常に重要なことです。また日常的にも独居高齢者や障害のある方などへの近隣の安否確認・支援や、地域の全員が関係する事柄ですので、地域内の新しい「つながり」も望めるのではないのでしょうか。この機会に町内全地区で自主防災を組織しましょう。

自主防災組織設立及び各種の防災訓練を行うにあたり、町の補助金もあります。詳しくは役場担当までご連絡ください。

お問合せ：佐川町役場総務課危機管理対策課室 22-7700

活 動 名：小中連携プルタブアルミ缶収集活動

活 動 校：佐川中学校、尾川中学校、佐川小学校、尾川小学校、黒岩小学校

活動範囲：佐川町全域

活動概要：空き缶のプルタブやアルミ缶などを収集し、業者さんを通して車いすに換えてもらい、福祉施設等に寄贈しています。

活動 PR：ゴミとなるアルミ缶やプルタブなど一つひとつは小さいですが、たくさん集まることで、車いすに交換してもらうことができます。一人ひとりのちょっとした小さな活動が町全体で集めると大きな活動になります。ぜひご理解とご協力をお願いします。

連 絡 先：各学校へお問い合わせください。

2 アンケート調査結果

「地域のお世話役さん」を対象としたアンケート調査結果（抜粋）

- ①調査対象者…部落長、自主防災組織代表者、民生委員児童委員、福祉委員など
 ②調査対象人数…364名 ③調査期日…平成24年8月15日～平成24年8月27日
 ④調査方法…郵送依頼、郵送返信 ⑤回答者数（回収率）…272名（74.7%）

Q1（地域の範囲のイメージ） 省略

Q2 あなたの住む地域を教えてください。ひとつ選んで□に印をつけてください。

- | | | | |
|-------------------------------|-----|--------------------------------|----|
| ☐ 佐川地区 | 109 | ☐ 斗賀野地区 | 85 |
| ☐ 尾川地区 | 27 | ☐ 黒岩地区 | 31 |
| ☐ 加茂地区 | 20 | | |

※以降の設問において「あなたの住む地域」とは小学校区のこと。

Q3 ここ4～5年、あなたの住む地域の 住み心地として最も近いものを1つ選ん でください。	合 計	%					
		全 体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
非常に住みやすくなった	8	3%	5%	1%	4%	3%	0%
やや住みやすくなった	41	15%	15%	15%	19%	16%	10%
以前と変わらない	164	60%	61%	65%	56%	52%	60%
やや住みにくくなった	55	20%	18%	18%	19%	29%	30%
非常に住みにくくなった	2	1%	2%	0%	0%	0%	0%
わからない	1	0%	0%	1%	0%	0%	0%
回答なし	1	0%	0%	0%	4%	0%	0%

Q4（地域の安心度） 省略

Q5 ここ4～5年、あなたの住む地域の 活気として最も近いものを1つ選んでく ださい。	合 計	%					
		全 体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
かなり活気がでてきた	7	3%	2%	4%	4%	0%	5%
やや活気がでてきた	43	16%	10%	15%	30%	26%	15%
以前と変わらない	85	31%	28%	35%	22%	32%	45%
やや活気が無くなってきた	111	41%	45%	38%	44%	35%	35%
かなり活気が無くなってきた	24	9%	15%	7%	0%	6%	0%
わからない	1	0%	0%	1%	0%	0%	0%
回答なし	1	0%	1%	0%	0%	0%	0%

Q6（地域での空き巣等の被害状況） 省略

Q7 ここ4～5年、あなたの住む地域のご 近所づきあいについて、最も近いものを 1つ選んでください。	合 計	%					
		全 体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
かなり増えてきた。	2	1%	1%	0%	4%	0%	0%
やや増えてきた。	46	17%	15%	20%	15%	19%	15%
以前と変わらない。	147	54%	57%	54%	52%	42%	60%
やや減ってきた。	62	23%	22%	21%	30%	23%	25%
かなり減ってきた。	14	5%	6%	4%	0%	16%	0%
わからない。	1	0%	0%	1%	0%	0%	0%
回答なし	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%

Q 8（住民の地域への関心度） 省略

Q 9 あなたの地域で行事が行われるときの住民の参加状況について最も近いものを1つ選んでください。	合計	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
積極的に参加する	22	8%	4%	14%	15%	3%	5%
どちらかというと積極的に参加する	114	42%	39%	40%	48%	48%	45%
あまり積極的に参加しない	127	47%	52%	42%	33%	48%	50%
全然参加が望めない	5	2%	2%	2%	4%	0%	0%
わからない	3	1%	2%	1%	0%	0%	0%
回答なし	1	0%	1%	0%	0%	0%	0%

Q 10 あなたの地域に住んでいる人は、お互いに助け合って生活していると思いますか。最も近いものを1つ選んでください。	合計	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
日ごろから助け合っている	67	25%	24%	25%	26%	32%	15%
時には助け合っている	158	58%	57%	61%	63%	45%	65%
あまり助け合いはない	41	15%	17%	11%	11%	23%	20%
まったく助け合いはない	1	0%	0%	1%	0%	0%	0%
わからない	4	1%	2%	2%	0%	0%	0%
回答なし	1	0%	1%	0%	0%	0%	0%

Q 11（あなたのボランティア活動への関心度） 省略

Q 12 お住まいの地域で住民同士の信頼感や助け合い意識を高めるためには、どのようなきっかけがあれば効果的だと思いますか。大切だと思うものを <u>3つまで</u> 選んでください。	合計	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
普段からあいさつや声かけを行う。	182	68%	71%	65%	74%	65%	60%
防災など地域の問題解決に向けて一緒に取り組む。	139	52%	52%	54%	52%	42%	55%
部落単位などでのお祭りなど親睦の機会をつくる。	127	47%	49%	51%	59%	35%	25%
地域の公園や道路の管理を共同で行う。	83	31%	30%	32%	41%	29%	20%
地域の高齢者や子どもの見守りを一緒に行う。	81	30%	30%	33%	26%	26%	30%
運動会などのイベントを行う。	57	21%	10%	27%	4%	35%	60%
趣味を通じたサークル活動を増やす。	41	15%	15%	11%	22%	23%	15%
身近なテーマについて学べる講習会等を行う。	24	9%	8%	11%	11%	10%	0%
わからない。	7	3%	4%	4%	0%	0%	0%

Q 1 8 地域でのあなたの立場（役職）で課題に感じることは何ですか。下記で該当するものを <u>すべて</u> 選んでください。（複数回答可）	合 計	%					
		全 体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
高齢化が進んで、活動が停滞している。	151	56%	61%	50%	70%	55%	40%
地域のつながりが弱くなっている。	123	46%	53%	44%	37%	35%	40%
地域に関心のない人が増えている。	106	39%	51%	30%	26%	45%	20%
後継者がいない。	95	35%	29%	39%	37%	39%	45%
個人情報保護が活動の障壁になる。	85	32%	32%	37%	30%	23%	25%
仕事等で忙しく役割を十分果たせない。	84	31%	29%	37%	30%	29%	25%
地域の助け合いが少なくなっている。	71	26%	29%	22%	26%	32%	20%
話し合う機会がない。	56	21%	24%	21%	11%	13%	30%
部落に入らない人が増えている。	52	19%	26%	18%	4%	19%	10%
取り組みを行うための予算が不足している。	34	13%	11%	13%	4%	23%	15%
地域を知らない。	26	10%	11%	10%	4%	0%	25%
地域で人が集まる施設がない、または十分ではない。	24	9%	9%	7%	4%	23%	0%
書類作成などが煩雑。	15	6%	3%	6%	0%	19%	5%
困ったときの相談先がない。	10	4%	6%	4%	0%	3%	0%
活動を周知する方法がない。	7	3%	2%	2%	7%	0%	5%

Q 1 9 あなたの役職上感じる、地域の課題を克服するために必要があると思うことは何ですか。下記の中から <u>大切だと思うものを3つまで選び</u> □に印をつけてください。	合計	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
高齢になっても元気で活動できる健康づくり・介護予防の取り組み。	124	46%	48%	49%	56%	32%	35%
後継者の育成。	109	41%	37%	44%	30%	48%	50%
住民同士の仲がよくなる活動・取り組み。	98	36%	39%	40%	37%	16%	35%
若者の転入・定住。	72	27%	22%	20%	63%	32%	25%
子どもの頃から地域に愛着や誇りを持てるような取り組み。	69	26%	26%	26%	22%	29%	25%
行政と地域の人的物的連携・協働。	57	21%	25%	22%	15%	13%	20%
世代間交流の取り組み。	52	19%	21%	20%	15%	16%	20%
地域の活動に予算をつける。	40	15%	10%	17%	7%	26%	25%
部落組織への加入の徹底。	34	13%	18%	11%	0%	10%	10%
人が集まりやすい集会所などの整備。	34	13%	11%	12%	11%	26%	5%
地域お世話役さんの事務や活動を支援してくれるセンター設置。	28	10%	9%	15%	0%	13%	10%

佐川地区の方からのご意見

◆①60代70代のまだまだパワーも知恵もある「新老人」達を、町としてどのように吸収し、上手く利用するか。各人の持っている専門的な知恵や技術を細かく調査し、記録してそれを活かせる場を提供したり紹介することなど出来ないかと思ったりします。

②子供も含めた若い人々（30～40代まで）の社会的関心や地域への愛着を深める。わかりきったことですみません。（佐川地区70歳代男性）

◆①地域住民との交流機会が少なく、部落長でありながら地域住民世帯の家族構成や年金等個人情報がかくわからず部落での活動を行うにも人の振り分けも不十分になり不満が出る状況にある。②当部落の部落への未加入世帯は5世帯であるから少ない方では・・と思っているが、自宅を構え住民登録もしていると思うので、住民届けを受理する際役場で部落への加入を説明してもらいたい。③地域内で数少ない若い層は部落活動については無関心、不参加が多く又仕事を理由に部落の役員等にも敬遠しており、高齢者だけの活動では限りがあり若い世代と活動できる方策があれば教授してもらいたい。（佐川地区60歳代男性）

◆①地域住民の高齢化、10年後を想像すると空き家が急増する懸念あり。働いて収入を得る場所産業→U・Iターン政策の推進。②元々の住民と転入住民の地域に対する思い入れのズレ。（佐川地区70歳代男性）

◆①定年になった60代の方、元気な70代の方、もっと積極的に真剣に佐川町や部落の事を考えお世話して欲しい。（近頃の傾向として家族中心）②部落長や班長が順番制というのは絶対力を入れてお世話できない。③民生委員よく考えてお頼みして欲しい。④県、役場の定年になった方、どうか今までの能力を生かして地域のためにボランティアをしてください。（佐川地区80歳代女性）

◆アンケートに答えながら思ったこと。居住している地域は防災ボランティア地域の助け合いの意識についてですか、意識が無いということではなくみんなで集まって何かについて話し合う機会が今までに無かったように思います。ご近状の方も高齢化してあいさつは交わしても何か出来るのではないかと、ちょっと声掛けをしてあげてと思いながら、ヘルパーさんも来ているし、おせっかいなことになっても・・・など色々考えてしまいます。

町が元気になるにはやはり産業、収入を増やすことだと思う。農産物（お茶、にら、新高梨、など）やその加工品を佐川ブランドで売り出すこと、そのためのレストランやお土産を販売するちゃんとした建物と地域の結束力が必要ではないかと思う。（バラバラではだめです）

町の将来はやはり人です。子どもの教育（学校）そして生涯教育の充実、そして福祉と医療は人として生きる基本です。行政がしっかりとやってほしい。（佐川地区60歳代女性）

◆いつも道路ぶちの草が木になります。日程を決め自由参加でボランティアというのができないかなあと考えます。自主的に参加したくなるような取り組みが大事だと思います。（佐川地区60歳代女性）

◆お世話役も同じ人が長くやらず交代してはどうでしょう。結婚する出会いの場をもっと増やせば若者の定住子どもさんの数も増すのでは？（佐川地区60歳代女性）

◆すでに町行政事業として取り組んでいる事かもしれませんが、生命を作る水、生命を維持する水、生活の安全・安心と豊かな生活に欠かす事のできない水・佐川町住民の生活に絶対に必要な水、今、水源となる尾川川の上流域「水源涵養・保安林」の整備が必要だと思います。

中長期的な展望の下に、水源涵養林の整備が必要だと考えます。今できるから計画的に取り組み、佐川の将来を担う子ども達、未来の住民のために、佐川の宝となる水を確保する施策が必要だと考えます。現在の「資源涵養・保安林」の計画的な間伐や伐採、併せて計画的な落葉広葉樹の植樹を行うという、水源涵養林の整備についての一考を熱望します。（佐川地区70歳代男性）

◆たくさん困っていることはありますが、⑩の項目をよろしくお願いします。私の協力員リーダーとしての責任だと思いますが、後継者がいなくて困っております。（佐川地区70歳代女性）

◆どこの地域でも同じと思いますが、高齢化と住民数の減少など先々の不安感があります。佐川広報誌を見る毎に人口減少がすすんでいて、何かに人口が集まればそんな方法は無いかといつも思っています。(佐川地区 70 歳代男性)

◆みんながあまり負担を感じない程度に一緒に活動する集まりの場があると一体感が強まり助け合い楽しく生活できるようになるのではないかな？それには各活動を分担して行うシステムにする必要があると思う。(佐川地区 60 歳代男性)

◆介護保険料を納めても給付を受けられない時代に突入しています。命がある限り如何にして健康を保つか高齢者自身がどこまで自覚しているか疑問です。自分の健康は自分で作らなければ誰も助けてくれないのです。(佐川地区 80 歳代男性)

◆各部落の世代間交流への取り組みに行政担当者が参加指導(佐川地区 70 歳代男性)

◆近い将来、集落営農を望む。(佐川地区 70 歳代男性)

◆現在の福祉行政や社協の活動はよくやってくれております。ただ受ける者には感謝の気持ちがありません。報恩の心を忘れ、また自分勝手な利己主義者が増えています。社会全体で道徳教育に取り組めたらと思います。あと 5~10 年もすれば、地域は老人であふれます。現在 50~70 代の者は襟を正し、我田引水を改め、地域の模範となることが出来ればおのずと立派な後継者が育つと思います。誰でも他の助けがいるときが来ます。それゆえ元気なものは私利私欲のみを追求するだけでなく、公共の心も持ちたいものです。(佐川地区 60 歳代男性)

◆広範囲を一人で担当していますが自分の部落の状況さえ完全には知りえないのに他部落の様子はなかなか情報を得にくく、福祉委員さんのお力を借りている状態です。問いの中にもありましたが個人情報保護という壁があり表札も電話番号も掲示しない家庭がありますが、昔は郵便配達人や新聞配達人さんに聞けばすぐにわかったことが今はそれも叶わない状況です。新しい家が建ち転入転出者で入れ替わりもあって探し回るのが苦労します。また協力員、サポーターも皆高齢後期高齢者に当たる人で自立できている人たちに頼っている状態です。いつ世話になる側になるかも・・・という不安があります。若い後継者の育成、頼り頼られやすい人間関係日ごろから気安く話し合える交流のためになるべく色々な会合や行司に参加してはいますが、家庭に篋もりがちのひと(高齢者)への声かけや心を開いてもらう方法が・・・人それぞれですね。なるべく行政に頼らない近所同士の助け合い「助けて」「手伝って」を気軽に言える環境づくりを・・・地域の災害マップに住民の職歴(現役も)例えば、医師、看護師、消防士、介護士等々を了解を得て記載することが出来れば突然の災害時にも役立つのではないかな？(佐川地区 70 歳代女性)

◆行政と地域とは一体となり同じベクトルをもって取り組んでいかなければならない。行政はもっとリーダーシップを発揮してもらいたい。
文化活動地域活性化活動をはじめとして、行政は町民(または行政以外の組織)に頼りすぎ。行政は地域住民と両輪でもっともっと危機感を持って取り組んでももらいたい。
行政への要望等に対し、あまりにも対応処理が遅すぎる。または聞きっぱなしのことが多すぎる。もっと真摯に受け止め誠意ある動きを迅速に行ってもらいたい。
町議の活動がまったく見えない。高い報酬を受け取っている割には活動があまりにもお粗末。町の行く末を案じる。(佐川地区 60 歳代男性)

◆行政の方の部落での活動を希望します。(佐川地区 60 歳代女性)

◆行政の無駄を省き、物づくりよりも人づくりが望まれます。有線放送の女性の方は何を言っているのか？もっともっと勉強して同じことならはつきり判りやすくいついていただきたいです。(佐川地区 60 歳代男性)

◆高齢化がすすみ隣近所が高齢化で非常時の連絡先の確認が難しくなっています。福祉施設に入るにも年金ではまかなえない一人住まいで家族は県外が多く部落では対応できない時代になってきます。福祉協議会(行政)で対応よろしく。(佐川地区 60 歳代男性)

◆高齢化が進み、地域の活動が出来ない状態にあり協力者がいない。又いるとしてもこのような状態を負担に思い無気力で活動に参加がない。(佐川地区 70 歳代男性)

◆今、自分の体に不安があり、いつまで皆さんのお世話が出来るだろうかと、どうぞ自分のことだけでいいからと思うこの頃です。みんなが仲良く助け合っていける佐川町であって欲しいと願っています。(佐川地区 80 歳代女性)

◆子どもの通学路の見直し。高北病院前より沢田外科に通ずる通路の通学路は車が多くて子どもの危険箇所が多いので通学ゾーンの見直しをしてほしい要望の話が出ています。(佐川地区 70 歳代男性)

◆私たちの地域は小学生が一人、高齢者も増え昔とはちょっと変わってきました。できるだけ声を掛けるようにはしていますが…電話をかけて色々話したりすることもあります。高齢になった姿を見られたくないと思っている人もいますし…難しいですね。私たちの地域はいい方だと思います。近所隣は仲いいですから（5、6 軒くらいの本当の両隣くらいですが）(佐川地区 60 歳代女性)

◆自主防災組織を強化し、地域住民がお互いに助け合うことが出来る絆を強くしたい。
自分の健康は自分で守るというようにウォーキングなどを自主的にやれるようにしていきたい。（声かけて仲良しグループづくりをする）
子どもが多くなってきているので、子ども会等のイベントなど地域で取り組めるムード作りを若い親たちと話し合いをしていきたい（地域活性化）（世代間交流）(佐川地区 70 歳代男性)

◆若い人が参加してみようと思うボランティアやサロン活動の概要を説明したり、体験できるセミナーを開いたり若者が活動でいる場の提供は出来ないでしょうか。(佐川地区 70 歳代女性)

◆若い人々の新築の家屋が次から次へ増えているのに対して誰も住んでいない家屋が町中にまで増えている。どうしようもない。高齢化と農林業離れで田畑山林、人でもなく荒廃が進んでいると共に人の心も廃れていく。何とかならないものだろうか。世代交代してゆく子どもたちの為に。科学文化は日々進んでいるけれども、それにつけても不安が伴います。私たちに出来る小さな事から実行したい。例えば科学洗剤は少なめに。地域の子どもの褒め言葉。(佐川地区 70 歳代女性)

◆若者の定住に力を入れてほしいと思います。(佐川地区 80 歳代男性)

◆住民の高齢化、人口減、大半が 70 歳以上。町の中心部で限界集落も間近な状態で何事も取り組み難い。(佐川地区 60 歳代女性)

◆住民同士の仲が良くなる活動、とても難しい時代になりました。引きこもりやニートと呼ばれる子ども（大人）が住んでいても話をするのはタブーです。それだけでなく子どもや孫について語れるのは小さいときだけです。未婚の人に結婚を勧める人もいません。こんな時代他人の人生に関わることなどできませんし、またすべきでないと思います。住民同士の会話もお天気の話ぐらいです。そんな訳で部落の集まりも段々高齢化して次世代がいる家庭も子どもを参加させることはあまりありません。このままだとあと 20 年後くらいには部落組織はなくなると考えられます。(佐川地区 60 歳代女性)

◆小集落に愛の行政を望みます。(佐川地区)

◆先進的な地域の取り組み対して、一律の予算措置でなくも出るケース等として付加的な予算をつけて格別のサポートをすれば活動の活性化に多少つながると思うので短期的な思考でなく中長期的な（持続的）考え方で各種施策を実施してほしい。(佐川地区 50 歳代男性)

◆地域の皆さんはそれぞれ「地域 みんなが幸せに暮らせる日々を！」と思っておられると思います。でもその思いがひとつになって何かの形で表していくのはなかなか難しいものです。何かきっかけがあれば…と思いますが年金の幅が広いので…小さな親切小さなつながりは一杯あるのに、みんなで知恵を出し合うっていうのも、そういう機会も無く難しいです。(佐川地区 70 歳代女性)

◆地域を良くしてゆこうという考え方が少なく、自分たちのことは自分たちでやって行こうという自意識が少ない。誰かがやってくれるだろうと、人頼みの気持ちが強く積極性が見られない。リーダーシップが旗を振っても我が事でないに関心を示さず反応に乏しい。地域内に居住する町職員の現役やOBの方が、リーダー役世話役を積極的に買って出て地域の活性化に力を出してもらいたい。一般の方で動ける人が少ないので、これらの方が陰の力となって方向付けをやってもらえれば前向きの空気が生まれると思われる。(佐川地区 90 歳代男性)

◆低額で入居できる老人ホームを作してほしい。(佐川地区 70 歳代女性)

◆部落に入らず子どもの学区の方も別の区域に入って子どもをその地域に無いところの学校などに通学しているとの話も聞く。残念に思う。また部落組織に入らん人もいるとのこと。役場はもっと運動して加入をさすようにつとめるべきだ。(佐川地区 80 歳代男性)

◆平成 18 年 5 月よりいきいき(かみかみ)体操に参加している。6 年近く 330 週回行い、老人の体には大事な体操と思っている。この間参加者の移動があり、参加人数が減少した。人集めの努力をしてみても年齢に断層があり新加入はない。ある集会において高齢化する地域の老人の自立維持のためいきいき体操を地域に生かすため、町議会議員、と各部落の代表である部落長会の協力を求めた事がある。上記意見は今日まで動きが見られない。町にあっては佐川の将来を俯瞰し、企画し組織化しようとする人材が求められる。(佐川地区 80 歳代男性)

◆防災無線が聞こえない(佐川地区 60 歳代男性)

斗賀野地区の方からのご意見

◆高齢化等に伴い、農地の荒廃が進み水路の破損箇所が多くなっている。行政に修理を申し込んでいるがなかなか対応してくれない。水路の上で破損があれば下の田畑で作物が作れない、やむなく黒パイプ等で対応しているが、水路の役割とはならない。

町道の補修について、部落長を通じて町(産経課)に申請する事になっているが町の職員は町内を仕事上で回っていると思う、担当課以外の職員でも破損箇所に気がつけば担当課に連絡し、改修する等の配慮がほしい。(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆Q18 でもふれたことですが、体が動けなくなるまで働いてその後介護施設へ通所するだけとなるような事を皆にしてほしくないという思いが強いのですが、そのための具体的な対策を百歳体操参加者と話合っても答えが出ません。老人会への参加も呼びかけてるのですが「興味がない」「めんどくさい」とお弁当でもつれません。とりあえず思うのは集会所を昼一定時間開放して居心地の良い場所作りからはじめてはどうでしょうか？(斗賀野地区 60 歳代女性)

◆いつもお世話になります。これからも地域活性よろしくをお願いします。(斗賀野地区 60 歳代女性)

◆それぞれの組織での活動状況及び実情が共有できてないように思われる(共有する機会が少ない)(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆デイサービスはたくさんありますが、そこへ行くのに支度が大変のようです。いくら行っても 6 時頃から準備をして待っているがつれにきてくれるのは 10 分その間大変です。寒くなると又大変だそうです。部落にデーサービスがあればよいと思う。(斗賀野地区 80 歳代女性)

◆一例であるが、学校で指導されているあいさつ運動と最近一般社会で耳にする知らない人には声を掛けないなどの気運。用件で訪問したい場合、地域の「字名、人名」など分からない時、行政、準行政団体に聞くとプライバシーを理由に簡単に教えてくれなくなっている。地域の連帯、安心安全を担保するには、人を知ることが第 1 歩であり、全てアメリカナイズされるので

はなく、向こう三軒両隣、地域の人を気遣う古来の日本文化を守っていくことが大事ではないか。(斗賀野地区 60 歳代男性)

◆何の事業をするにしても、世話人がいないと成り立たない。世話人の育成も大事。仕事を中心なので皆さん世話人をやりたがらない。高齢化で集落機能の低下、地域が取り残されるようになる、若い人材が必要である。集落の存続のために何ができるか？私自身この先不安でたまらない。子どもの頃の体験が豊富な大人ほどやる気や生きがいを持っているし、人間関係能力も高いと思う。どうこういっても若い人材が必要である。(斗賀野地区 60 歳代女性)

◆核になる人力(複数の存在)身体の衰え、特に聴力低下からくる疎外感をもたれている方を見聞します。私の属する部落だけではないと思います。部落長会でもきつと話題になる事でしょうが・・・いい方策があったら知らせてほしい。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆基盤整備事業(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆現在斗賀野地区は NP0 法人とかの元気村の団体もあり比較的地域の活動で元気に動いている 60 歳以上の人たちがいるように思われますが、段々と高齢のものも増えてきます。次の世代が続いてくれるかということが課題だと思います。こんな課題の不安を少しでも解消していけるのは各々の地域で生活している行政職についている人たちが自分の時間を少し地域の各活動に参加してくれると変わってくるのではないかと思います。一人の住民であるという考え方の意識改革があると力強いものになると信じています。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆高齢になってもできる健康づくり、介護予防についてのお話をかわせみだけでなく年 1 回は小地区でも実行してもらいたい。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆高齢化によるマンパワー不足、事務局の人材、今は良いが・・・センターがあればよい。文推協、体育会は教委が事務局を担当している。行政が協働に参加すべき。地域活動、住民活動の芽を育てるべき、行政が様々な小さな取り組みを支援できれば良い。(斗賀野地区 60 歳代男性)

◆佐川町文化センターのトイレの整備、障害者高齢者が使いやすいように手すり設置。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆私が福祉関係で担当する 3 部落には各部落にそれぞれの決め事がありまして、部落総会、部落清掃など出席が必要なときには部落住民世帯のほとんどから 1 名は参加があり、住民協力と触れあい部落内情報の良い共有の集合場所となっています。

この 3 部落には 18 戸の町営住宅がありますが、住宅が空けば直ぐに新転入者が入居されますが、しかし住宅入居者で特に地域外からの世帯は多数の方々が部落の決まりに賛同することが無く、近所との触れあいも少なく、人間関係も希薄となっています。このような入居世帯に部落長は対応に苦慮し多くの住民は不満をいただいています。

行政に要望ですが、町営住宅入居には入居地部落の決まりごとには協力することを条件として指導し、入居契約をお願いしたい。(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆私の地域も高齢化が進み子どもの数も少なくなり農家の多いところなので将来耕作できないところが増えて後継者が不足が心配です。部落では昔から住んでいる人が多いので割合助け合いは良くできている暖かい人がいると思います。年をとっても元気に動ける体作りに介護予防にもっと多くの人に参加してもらいたいと思います。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆自分が一番だから協力難しい。我儘勝手すぎ放題、まとめるのは難しいね！(斗賀野地区 60 歳代男性)

◆自分の立場(部落長)が長期となり後継者も見当たらず少々マンネリ化してきていると反省している。(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆若い人がいない、後数年すればジジババタウンとなる。つぎはぎ人間、フランケンシュタイン化した高齢者ばかりとなる高度医療も考え物である。健康ばかり考えて食品も高い安全なものを食べる高齢者。若い人は低い収入で忙しく何やらわからない食品と手抜き食品を食べる子ども達。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆昔と(私たちが子どもの頃)違い隣近所同士での注意指導が出来ないこの頃、今回の回覧にもあったように、家庭内での喫煙、飲酒(未成年)を見つけても注意できにくい世の中夜間は、前みたいに田舎の方へもパトカーの巡回をやってもらいたいです。高齢者に関しては声が消してもお互い気持ちよく声を交わせるんですが、今時の子は注意しても睨まれますが、誰がそれを教えてるんですか?私たち大人そしてメディアでは?ちょっと考えて、ちょっと待ってと子ども達にゆとりを持たせる行政をして欲しいこの頃です。子ども等も夢があるんです。大人の夢を押し付けないでちゃんと一緒に歩こうよといってあげれる世の中にしたい。独りよがりかも。それとヘルパー資格ある人に短時間でも手伝ってもらってお年寄りの介護をしてもらっては。構わなければ有償で。(斗賀野地区 50 歳代男性)

◆赤ちゃん、幼児、小学生、中学生、高校生、社会人、障害者、高齢者みんなが集える場所があって孤独を感じないですごせる、そんなコミュニティができればいいな~と思います。(斗賀野地区 60 歳代女性)

◆川のふちの草を刈ってもらいたいです。少なくとも年に2~3回よろしくお願いします。(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆地域でいろいろなボランティア活動があると思うが、一人の人にあれもこれもと煮が重ならないように多くの方々が荷を分け合って活動していけたらよいと思う。活動できる人はたくさんおい出るので、安易に一人の人ばかりに押し付けないことが大切だと思う。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆地域での清掃など又色々の行事に参加するにしても高齢者が多いので出来ない状態です。部落に若い家庭の減少で...子どもの行事などと重なる為か。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆地域には 80 歳前後の高齢者が多く病弱の人も多くあまり取り組みへの参加が少ない。(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆地域には高齢者が多数いますが、いくら声掛けをしても参加しない、例えば百歳体操など自分の体は自分で守るということをいかにして知らしめたら良いか?何か良い方法はないでしょうか。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆地域を元気にするためにいかにして若い(30~50代)方に参加してもらえるよう努力することが大切と思う。比較的(時間など)恵まれていると思われる町職員の方々が参加してくださればと思う。(斗賀野地区)

◆地域活動はどうしてもリーダー役が必要。ただリーダー役が多くいて活動していても、各リーダーがどんな役割を果たしているのかをお互いに知らなければ活動が見えない。行政関係、JA 関係、学校関係、各グループ関係など様々な活動リーダーが一斉に集まりお互いに知り合えばもっと深く広くなりはしないか。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆町、財政に見合った老人介護。(今後の介護費用、負担増を心配)(斗賀野地区 70 歳代男性)

◆斗賀野地区へ国民年金でも入居できる施設老人ホームを作っていただくようお願いします。(斗賀野地区 80 歳代女性)

◆斗賀野地区をいつまでも元気で住みよい地域にしたいと思い活動している。しかし現役であることから時間に制約があり、また家庭的な事情から十分に活動する時間が少なく困っている。そういう意味では後継者の育成やバトンタッチできる者が必要と思うときもあるが、地域は高齢者ばかりで現実には難しい。やれるものが精一杯やっていくことしかないときとあきらめつつ毎日ボランティア活動をしている。(斗賀野地区 60 歳代男性)

◆独居の人が増加している地域の担い手不足を感じる。70 歳代になると皆肉体的に何かの障害を持っている人が多いので、何とかして若い人たちとの連携をとって生きたいと思うが、核家族になってしまい話の通じないことが多くなっている現在を維持できる方法を学びたい。(斗賀野地区 70 歳代女性)

◆部落地域のリーダーが寄り合いよい方法、知恵等月一回ほど集まり、まずリーダーを育てる、それによって次のリーダーを育てるといいと思います。(斗賀野地区 60 歳代男性)

◆防災など地域の問題解決に向けて取り組む等で一言。自主防災役員をしている一部の人のみに判っていていもいざと成ったとき何も出来ないと思う。お役で知りえた知識や情報を地域住民に伝えることにより一丸となりボランティア活動にも関心が出来る明くるて楽しい地域づくりが出来るのでは…(斗賀野地区 80 歳代女性)

尾川地区の方からのご意見

◆①地域の課題 高齢者、独居世帯が多く見守りが大変である。若者が少なく道路、住宅等の整備が遅れている。地域のリーダーが少ない。

②地域への思い 昔のように子供の声が聞こえる地域になって欲しい。

③将来の地域像 若者が少ないので地域の崩壊が懸念される。

④望まれる取り組み 道路、住宅、仕事など若者が定住できる環境整備をする。

⑤行政への要望 職員の意識改革を行い本腰を入れて地域のために尽くしてほしい。3 ヶ月に一度地域の日を定めて何かアクションを起こしたらどうか。(尾川地区 60 歳代男性)

◆高齢者が仲良し元気にゆける場所。例さくら福祉事業所尾川分場所。
道路を(県道)良くして欲しい。(佐川町で一番遅れている)(尾川地区 60 歳代男性)

◆今後の課題は過疎化の防止のみ。①道路の整備(多くの予算取り)

②地域への U ターン、I ターン、③古家の調査、整備等、④耕作放棄地の調査・整備等、行政は良い補助事業等があれば積極的に推進すること。(尾川地区 60 歳代男性)

◆子供向けのイベント等を行い、地域の親子、老人たちが子どもと一緒に計画や進行をし、広い世代のふれあいや交流が出来る場所など(尾川地区 60 歳代男性)

◆私の地域はすでに限界集落であり部落内の班長さんを一年で変わっているが高齢者ばかりで今後気がかりです。また今のところ空家は少ないですが、5~10 年後はかなり増えてくると思います。(尾川地区 70 歳代男性)

◆人口を増やさないと将来の発展はありません。(尾川地区 70 歳代男性)

◆西山耕に新しく家を建てて住んでいるが部落には入っていない方がいる。現在の西山耕の住民に問題ありかもと思うが納得がいかない。(尾川地区 70 歳代女性)

◆地域の要望(生活道路の補修等)に対し、もう少し迅速な動きを希望する。(尾川地区 70 歳代男性)

◆当部落は少子高齢化が進み現在子ども 1 名もいない状況でさらに離婚者の多い状態で近い将来は部落が維持が出来ないと危惧しています。将来は他部落との合併も考えなくてはと思っている。今現在は農協支所以外は商店も無く大変な状態になりつつある。今は日用品等の買い物は定期バス、自家用車等を利用していますが今後高齢化が進み中で大変だと思っています。(尾川地区 80 歳代男性)

黒岩地区の方からのご意見

◆①選挙投票所が遠くなり、高齢者の足が無いため選挙権行使が出来なくなったという声を聞きます。
②地域の集会所でさえ遠いということで百歳体操部落の会などに出席できない高齢者がいます。(黒岩地区 70 歳代女性)

◆アンケートの要望は町民全体に聞いたのが良いのではないのでしょうか。(黒岩地区 60 歳代女性)

◆この地区の人口とか世帯数等ほとんど横ばい状況で高齢化はすすんでもいるが若者、若手が帰住していて案外他地域よりは活気があるように思えるし、人の繋がりも十分とはいえないがこのままでよいと思われるが人の集まる公民館には冷暖房が欲しいと願う。(黒岩地区 70 歳代男性)

◆現在県の取り組みとして高齢者への支援が主流を占めており将来国を担う未来ある子供たちへの支援、基本的には若者支援（就職、結婚等）への取り組みが乏しい現状だと思う。少子化の原因のひとつとして若者の働く場所（会社企業の減少）のないのに加え低賃金の状況では子育てもできないと思う。（厳に夫婦共稼ぎでないと保育量の支払えない現実である）対策のひとつとして町に多く雇用されている臨時職員の給料を上げてやる。実際正職員で長年勤務するとなーなーで仕事をしている者もいる。自分のかの内容もきちんと把握できずにきちんと対応できない者、休暇にしても全部消化する者、消化しきれず流している者、体を壊す戸度まじめに仕事にきちんと取り組んでいる者、差がありすぎると思う。大変な部署にはもっと臨時職員を増やし仕事量の軽減を図るとか、若者の正職員導入！ここ数年退職者もコンスタントに出ているのでその分若者雇用に税金を使ってほしい。（又一次退職した職員の雇用はやめるか、または臨時職員と同じ扱いにするべきだと思う。出勤してもしなくても月給はどうかと思う）いろいろ町政の批判をしましたがいい所もあり子育て支援の医療費の無料化はずいぶん子育て中の親には援助になっているので今後も続けて行ってほしい。特に若い親には金銭面の援助が必要だと思う。3人目からは出産奨励金を出すとか、町内在住町内勤務夫婦には子育て支援一時金とは税金も町内若者定住のためにいろいろ使ってほしい。(黒岩地区 60 歳代女性)

◆黒岩の中心地に子どもから高齢者までが一緒にいられる場所、図書の中に喫茶があるような部屋がほしい。ワンフロアがいいと思う。軽い運動ができ、語らいもでき、老人が赤ちゃんと話しができる、そんな施設がほしい。(黒岩地区 60 歳代女性)

◆今ならまだ間に合うと思うので、地域を活性化して若者の定住やリターンにつなげればよいのでは・・・(黒岩地区 50 歳代女性)

◆自主防災組織としては南海地震の際の上黒原地区の災害予想が出来れば対処のしようがある。(黒岩地区 50 歳代男性)

◆集落センターとヘリポート及び上水道の設置について私たちが住む地域（中野川流域）では現在は程よい不便さがあります。農業中心で後継者もおりますが、やがて近い将来は限界集落になるのも必至です。そこで中野川流域で取り組みたいのは、今県が進めています集落センターです。南海地震の防災対策に向けても集落センターとヘリポートの併設です。この地域はバスも通っておらず上水道也没有せん。このような事も併せますと必要であることはお分かりのことと思います。私たちが出来ることは取り組み又行政のご協力も必要だと思います。よろしくお願いします。また、中野川流域振興協議会の設立若者を中心とし、各集落や中山間直接支払いの集落協定等による組織と共に進めて行きたい。又地域医療も気軽に出来る場にもして行きたい。こういったことの取り国が福祉社会の一步で大事だと思います。(黒岩地区 70 歳代男性)

◆人口減少対策若者定住、結婚の機会づくり(黒岩地区 60 歳代男性)

◆地域に若者がほしい。(黒岩地区 70 歳代男性)

◆地区へのヘリの用地確保。高齢者の多い中思うように訪問できない福祉委員さん、部落長さん等々の効力の働きかけをしてゆかなくてはと最近思う。(黒岩地区 70 歳代女性)

◆道路（町道、農道）、水道等インフラ整備が遅れていると思います。若者が定住するためにも絶対必要です。（黒岩地区 60 歳代男性）

◆百歳体操は高齢者の方の出席が難しくなっています。今の時期暑さ雨の日が多くて歩いてくることが出来ないで困っています。車の便もなかなか都合が付かないので欠席になりますのでだんだんと人数が減っている現状です。（黒岩地区 80 歳代女性）

◆部落世帯数、人数の割りより、共同作業（草刈、汚水清掃）など範囲が広く作業者に重労働がいく。補助金などお願いしたい。（黒岩地区 60 歳代男性）

加茂地区の方からのご意見

◆高齢者に対する援助が今後ますます必要になってきます。病院にいきづらい、買い物が出来づらい方への地域タクシーの充実等（加茂地区 70 歳代男性）

◆山の開発がすすみ自然が無くなっていくのが心配。逆に地域に活力の出る、駅に多くの人が集まることがあればいいのですが・・・（加茂地区 60 歳代女性）

◆若い人（青年男女）が気軽に部落活動に参加できるように、部落長活動を簡素化したらよい。（勤め人の場合は、日程に参加できない場合がありますので）それとも定年退職した方が部落長をするとか？（加茂地区 40 歳代男性）

◆少子高齢化が進み誰かに頼って生きていかななくてはならない時代が私たちも目の先です。だからこそ地域近隣と仲良く信頼してお付き合い助け合うことの大切さ難しさを感じます。今の 5 年 10 年先どんな時代になるでしょう？（加茂地区 70 歳代女性）

◆人口減少問題を解決しないと将来がない。（加茂地区 60 歳代男性）

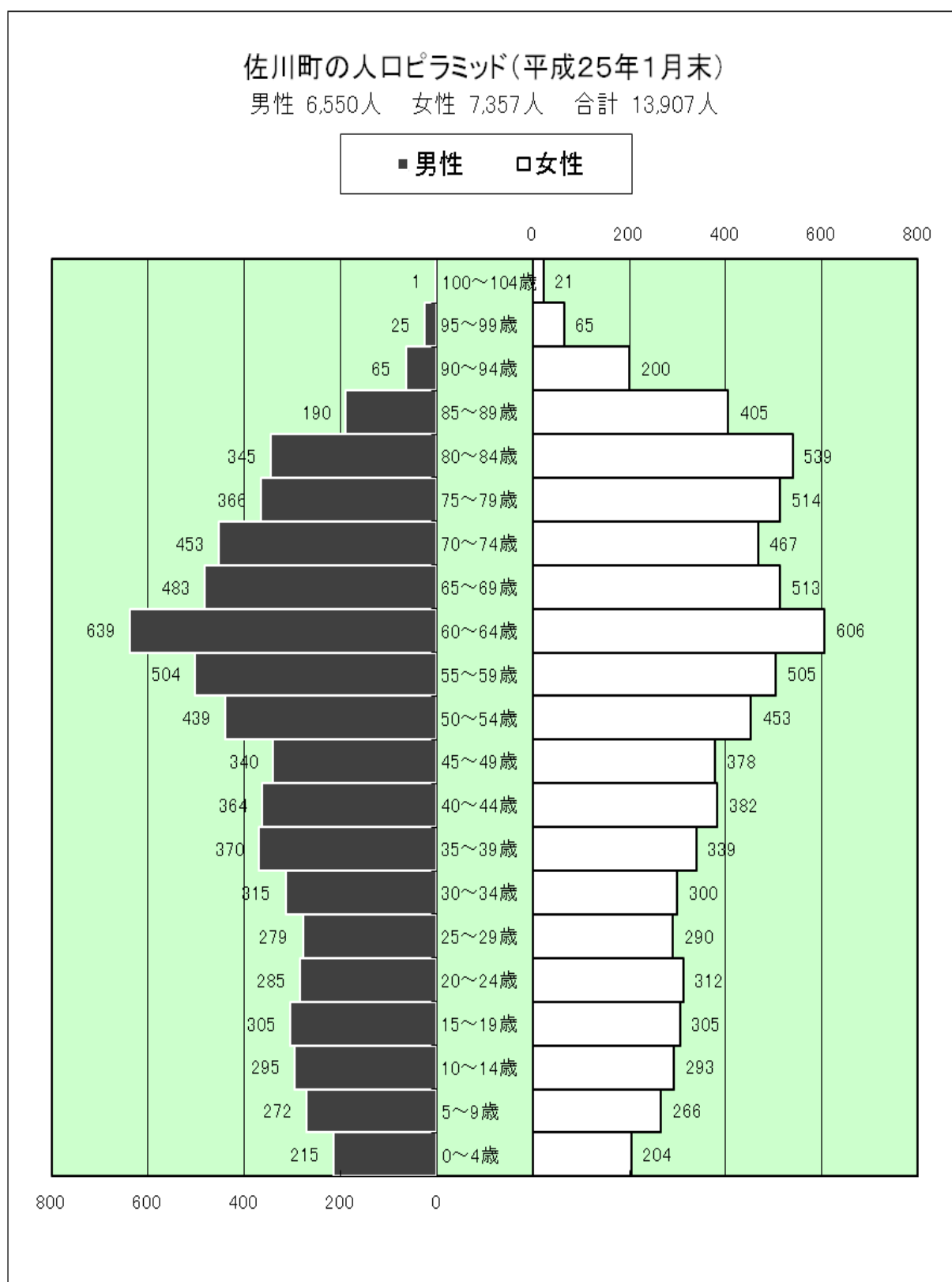
◆人口増の工夫（加茂地区 70 歳代男性）

◆水道の引き込み、道路の整備（加茂地区 70 歳代女性）

3 行政統計データ（平成25年1月末現在の人口分布）

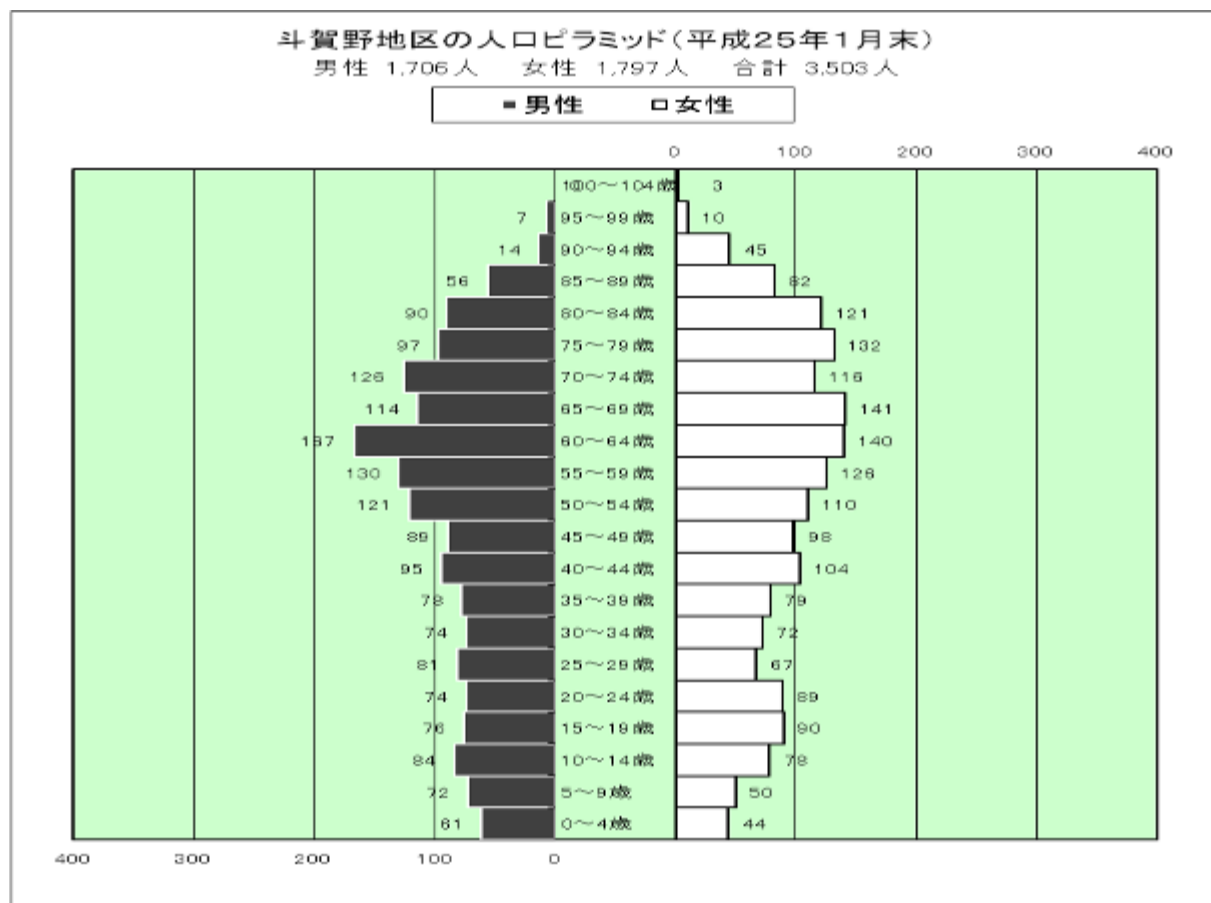
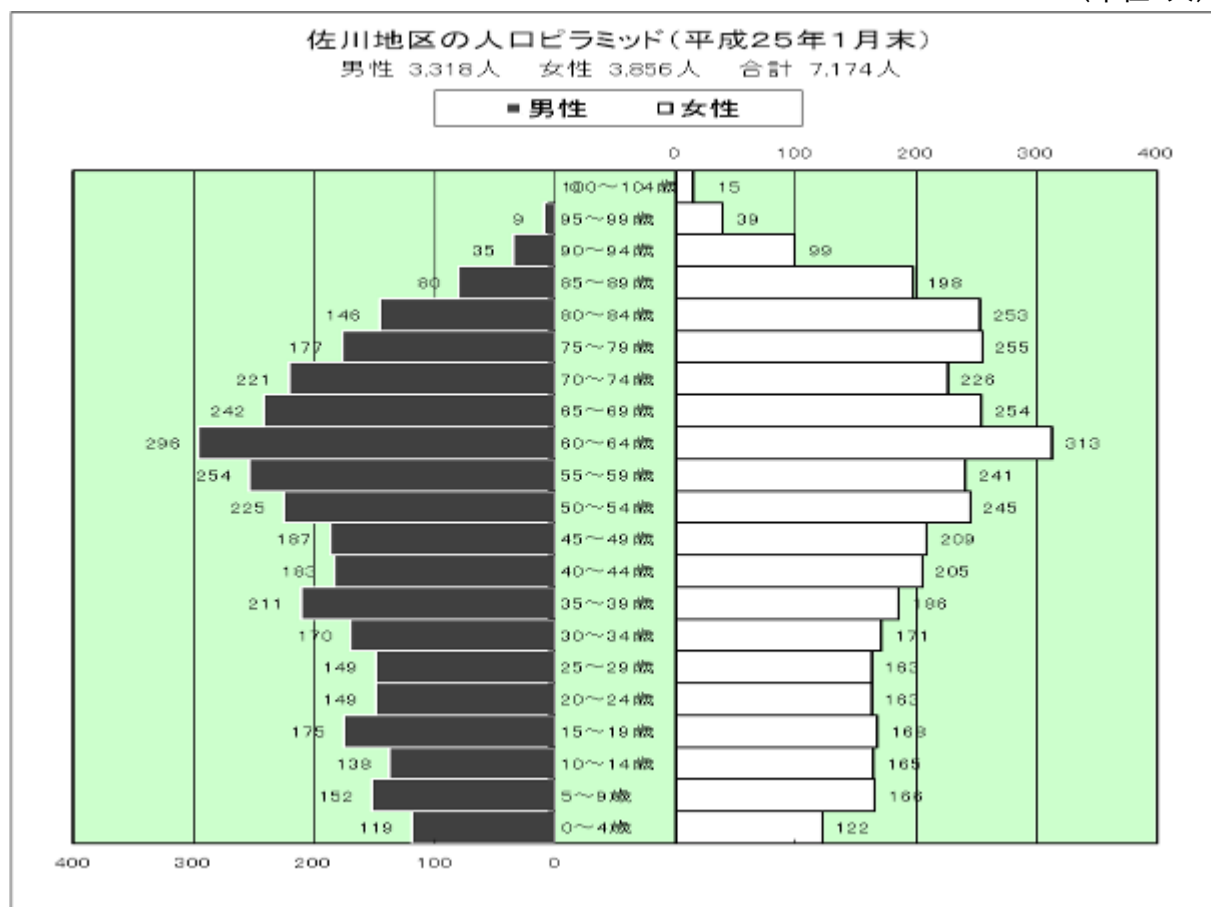
【佐川町全域】

（単位：人）



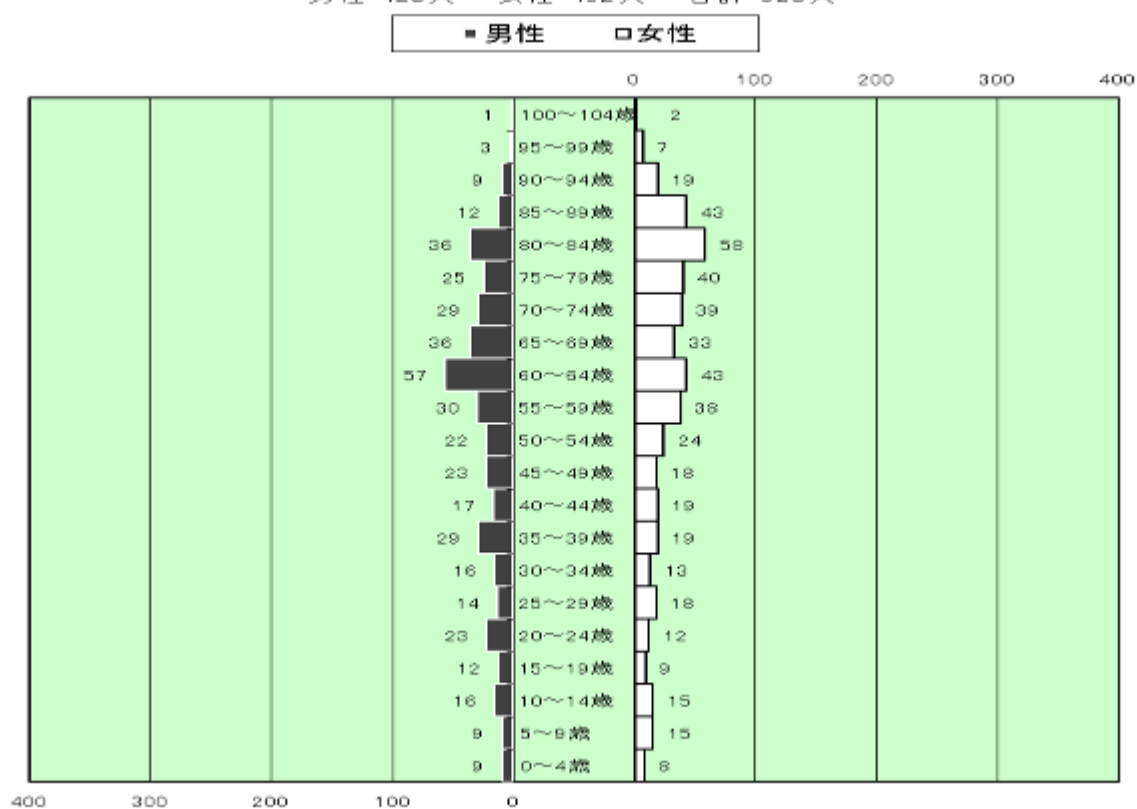
【地区別】

(単位:人)



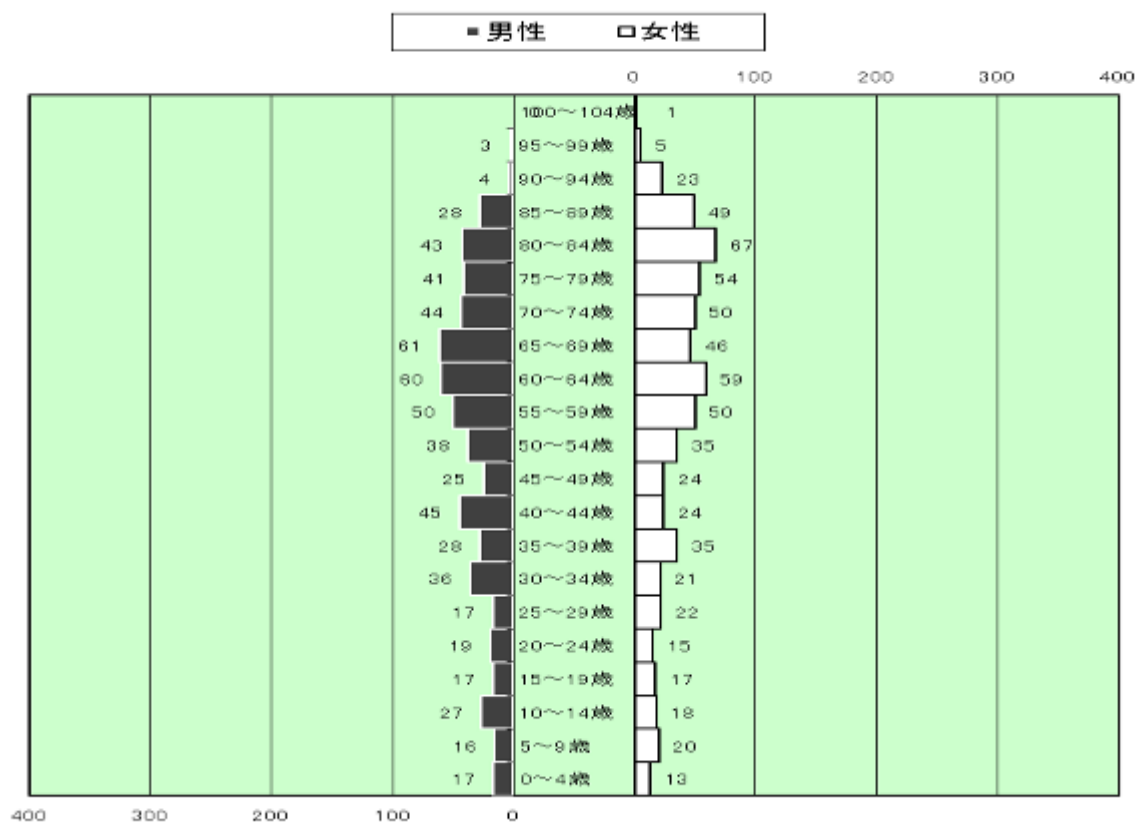
尾川地区の人口ピラミッド(平成25年1月末)

男性 428人 女性 492人 合計 920人



黒岩地区の人口ピラミッド(平成25年1月末)

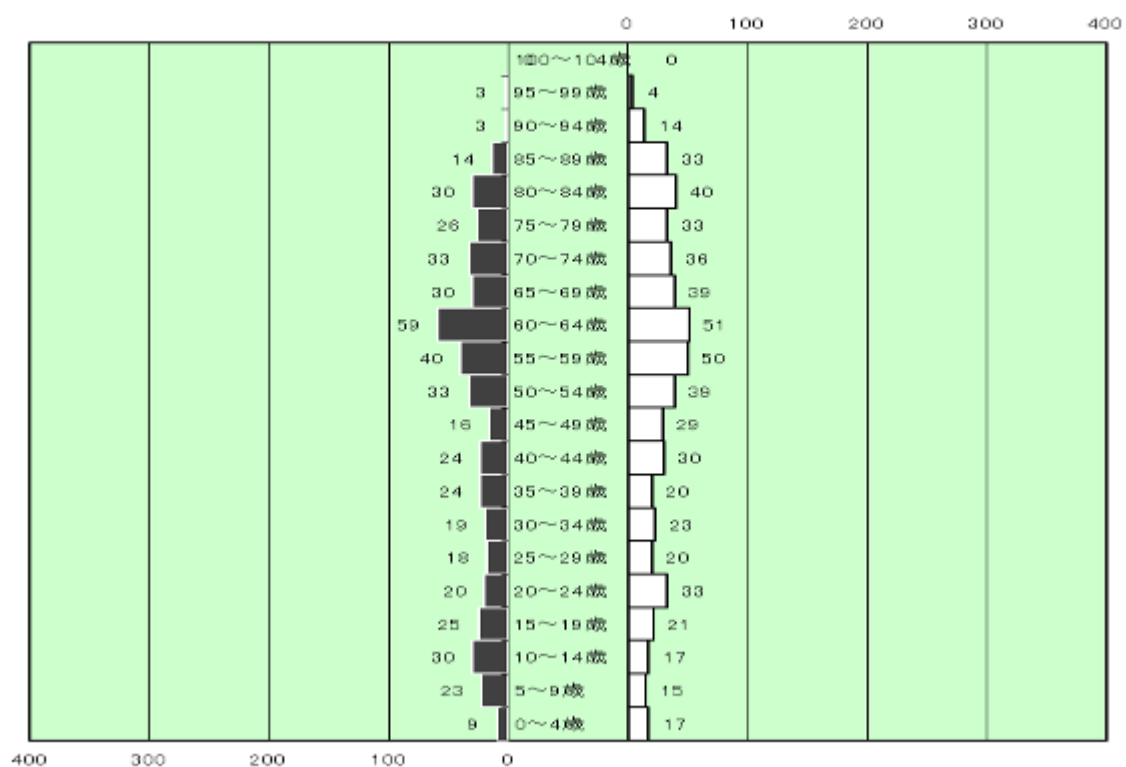
男性 619人 女性 648人 合計 1,267人



加茂地区の人口ピラミッド(平成25年1月末)

男性 479人 女性 564人 合計 1,043人

■男性 □女性



4 佐川町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 佐川町における地域福祉を総合的に推進することを目的として、社会福祉法（昭和26年法律第45号）に基づき佐川町地域福祉計画及び佐川町地域福祉活動計画（以下「計画」という。）を策定するに当たり、地域住民、地域組織、関係団体等の意見を反映させるため、佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、計画策定に関する事項について、調査審議し、その結果を町長に報告するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、地域福祉に関係する者のうちから、町長及び町社会福祉協議会会長が連名で委嘱又は任命する委員25名以内をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から平成25年3月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じ委員長が招集し、委員長が会議の議長を務める。

2 委員長が必要と認めるときは、委員会に所掌事項に係る関係者の出席を求めることができる。

(作業部会)

第7条 計画原案策定に至るまでの素案の立案及び調査検討を行うため、委員会の下部組織として作業部会を置く。

2 作業部会員は、委員長が委嘱し、又は任命する。

(庶務体制)

第8条 委員会及び作業部会に係る庶務は、佐川町健康福祉課並びに佐川町社会福祉協議会協議会の共管とする。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年6月1日から施行する。

5 策定委員会・作業部会・アドバイザー・事務局名簿

地域福祉活動計画策定委員会

No	地 区	氏 名	所 属
1	佐 川	岡添 豊彦	佐川地区部落長会会長
2	斗賀野	庄野 孝也	斗賀野地区部落長会会長
3	尾 川	横田 三夫	尾川地区部落長会会長
4	黒 岩	谷脇 正純	黒岩地区部落長会会長
5	加 茂	坂本 貞雄	加茂地区部落長会会長
6	佐 川	堀見 昇出	みんなで福祉のまちづくり委員会委員長
7	佐 川	田村 幸生	みんなで福祉のまちづくり委員会佐川地区部会長
8	斗賀野	森 正彦	みんなで福祉のまちづくり委員会斗賀野地区部会長
9	尾 川	澤村 重隆	みんなで福祉のまちづくり委員会尾川地区部会長
再掲	黒 岩	片岡 勝一	みんなで福祉のまちづくり委員会黒岩地区部会長
11	加 茂	坂本 貞雄	みんなで福祉のまちづくり委員会加茂地区部会長
12	佐 川	矢野 定	佐川町老人クラブ連合会長
13	斗賀野	松本 清光	佐川町身体障害者協議会長
14	佐 川	藤田 千砂	佐川町手をつなぐ親の会長
15	佐 川	矢野 博子	佐川町食生活改善推進協議会長
16	斗賀野	西田 芳子	佐川町赤十字奉仕団委員長
17	佐 川	出間 緑	JA にここ会会長
18	佐 川	横畠 和夫	佐川町消防団長
19	斗賀野	渡辺 忠直	民生児童委員協議会会長
20	保育園	横畠 美和	保育連絡協議会
21	行 政	下川 芳樹	健康福祉課長

地域福祉活動計画作業部会

No	地 区	氏 名	所 属
1	佐 川	刈谷 要介	民生委員・商工会理事
2	佐 川	吉野 毅	NPO 佐川くろがねの会
3	佐 川	浜田 博子	民生委員児童委員・保護司
4	斗賀野	吉永 永	さくら福祉事業所・社協理事
5	斗賀野	田村 裕子	とかの元気村理事・図書館運営委員
6	斗賀野	西森 千佳	斗賀野中央保育園園長
7	斗賀野	森田 利克	民生委員児童委員
8	斗賀野	菊池 美恵	元県保健師
9	尾 川	河添 周二	中村地区部落長・自主防災会長
10	尾 川	和田 隆明	手話サークル
11	尾 川	田村貴美子	民生委員、尾川婦人防火クラブ委員長、尾川地区活性化協議会役員
12	尾 川	西森 寿	J A 職員、消防団
13	黒 岩	川崎 まり	黒岩親の会事務局
14	黒 岩	和田 昌幸	農業
15	黒 岩	山口 ちづ	民生児童委員
16	黒 岩	中内 雄三	仁淀川中流域水害対策推進住民会議事務局長
17	黒 岩	永田 滋	佐川町民生児童委員協議会副会長
18	加 茂	北添 秀紀	元佐川町国土調査課長

アドバイザー

No	氏 名	所 属
1	田中きよむ	高知県立大学教授
2	光内 幸久	元気応援団
3	種田 智加	高知県社会福祉協議会地域福祉課チーフ
4	坂本喜代子	高知県中央西福祉保健所次長兼地域支援室長
5	濱田 純	高知県中央西福祉保健所地域支援室チーフ
6	野中 浩二	高知県中央西福祉保健所地域支援室

事務局（佐川町健康福祉課・佐川町社会福祉協議会）

No	氏 名	所 属
1	下川 芳樹	佐川町健康福祉課長
2	田村 秀明	佐川町健康福祉課長補佐
3	岡崎 省治	佐川町健康福祉課生活応援係長
4	山中 秀男	佐川町健康福祉課地域包括支援センター管理者
5	横畠 由起	佐川町健康福祉課地域包括支援センター係長
6	岡林 逸子	佐川町健康福祉課介護ほけん係長
7	山岡幸二郎	佐川町社会福祉協議会事務局長
8	土居 妃佐	佐川町社会福祉協議会地域福祉コーディネーター
9	田村 佳久	佐川町社会福祉協議会福祉活動専門員